

**高梁川流域
瀬戸内海ブルー・オーシャン事業
現地調査報告書**

令和3年2月

倉敷市

目 次

1. はじめに -----	1
2. 本調査について -----	2
(1) 高梁川流域圏の概況（河川と瀬戸内海） -----	2
(2) 調査実施方針 -----	2
(3) 作業手順 -----	3
3. 高梁川流域における川ごみ及び海ごみの現地調査 -----	6
(1) 調査地点の選定 -----	6
(2) 現地調査の実施 -----	1 3
(3) 現地調査結果と分析 -----	2 1
ア. 調査地点ごと -----	2 1
イ. 調査地点の分類ごと -----	4 1
(4) その他の調査との分析 -----	5 1
4. 高梁川流域圏における海ごみの発生状況及び減量化策の考察 -----	5 2
(1) 高梁川流域圏における海ごみの発生状況 -----	5 2
(2) 高梁川流域圏から発生する海ごみ削減に向けて -----	5 3

1. はじめに

昨今、国内外では、経済の発展とともに利用範囲と量が増大したプラスチック類について、使用域から散逸することによって増大したプラスチックごみが海洋に流れ出ることにより、海岸等の景観を損ねるだけでなく、多様な生態系を有する沿岸環境の悪化をはじめ、海岸保全施設の機能の阻害、誤飲・誤食などによる生物への危害、漁業生産への悪影響等、様々な問題が発生している。さらに、プラスチックの劣化に伴い破砕され5 mm以下にまで微細化したマイクロプラスチックによる生態系への影響が問題になるなど、いわゆる「海洋ごみ問題」が世界規模の問題となり、あらゆる場でその削減に向けた取組が進められている。

この問題は、倉敷市が面している瀬戸内海においても例外ではなく、高梁川をはじめとした河川を通じて多種多様のごみが流れ込み、それらが漂流し、沿岸部に漂着し、海底に堆積する実態が確認されている。こうした状況に、各管理者をはじめボランティア、漁業者、各種団体など様々な主体が、漂着ごみ・漂流ごみ・海底ごみのいわゆる「海洋ごみ（以下、「海ごみ」という。）」の回収に取り組むなど、瀬戸内海や河川の環境を保ち、次世代へ繋いで行こうとする取組が盛んに行われている。

そこで、倉敷市は、高梁川流域から発生する海ごみの実態把握に向けて、高梁川やその支流、瀬戸内海沿岸で、ごみのサンプル収集と集めたごみの組成分析調査を行うことで、その実態に迫り、流域全体の海ごみ発生抑制や自然環境保全に対する意識高揚を図るための基礎資料としてまとめることを目的に本調査を実施した。

2. 本調査について

(1) 高梁川流域圏の概要

高梁川は、岡山県の西部に位置し、その源は岡山と鳥取の県境にある花見山（標高1,188m）に発し、新見市において熊谷川、西川、小坂部川等の支川を合わせて南流し、高梁市において成羽川と、倉敷市において小田川とそれぞれ合流した後、倉敷市内を南下して瀬戸内海の水島灘に注ぐ、幹川流路延長111km、流域面積2,670km²の一級河川である（高梁川水系河川整備計画：国土交通省より）。高梁川本流も含めた各河川の延長及び流域面積は、表-1の通りである。

表-1 本川・主要支川ごとの延長、流域面積

	延長 (km)	流域面積 (km ²)
高梁川 (本流)	111	2,670
成羽川	77.7	929.5
小田川	72.9	492

その流域を形成する県内の7市（新見市、高梁市、総社市、倉敷市、井原市、浅口市、笠岡市）3町（早島町、矢掛町、里庄町）は、総面積2,463.31km²、総人口770,755人（令和2年1月1日現在住基人口）で、岡山県内の約4割の人口となっている。この7市3町は、平成27年3月に地方自治法上の連携協約を締結した。この連携協約により「高梁川流域連携中枢都市圏」を形成し、同時に策定した「高梁川流域圏成長戦略ビジョン」に基づき、地域の総合力をもって、人口減少・少子高齢化社会への対応を図り、圏域全体の経済成長を目指す取組を進めている。

高梁川の水利利用については、国（国土交通省）の管理区域では、水道用水・工業用水として約13m³/s、農業用水として約30m³/sの許可水利となっている。

高梁川水系では主要6ダム（千屋ダム、小坂部川ダム、新成羽川ダム、高瀬川ダム、三室川ダム、河本ダム）が整備されている。その内、小坂部川ダムなどによって、水道水の供給がなされており、一部は香川県島嶼部の直島町にも配水されている。高梁川下流域に形成された水島コンビナートの水源としては、河本ダムをはじめとする、いくつかのダムによって供給がなされている。農業用水の主な取水施設には、下流部から潮止堰、笠井堰、高梁川合同堰（湛井堰）があり、岡山平野西部の大部分をかんがい区域としており、笠岡湾干拓用水や寄島用水などの遠隔地へも送水している。

(2) 調査実施方針

本事業においては、高梁川流域7市3町における海ごみの発生抑制につなげていくことを目的に、流域圏の自治体や学校、団体等と連携した現地調査を実施する。

現地調査は、7市3町で1カ所以上の調査地点を、内陸部もしくは海岸部から選定し、選定した場所のごみの回収、回収したごみの分類、個数・重量の把握により各地点の特徴を把握することとした。また、各市町の環境担当と連携し、調査場所や時期の選定、調査協力いただける団体等の情報提供や調整など、各市町に主導していただく形で現地調査を行うこととした。さらに、調査段階から各市町の学校や団体等と連携して実施することで、調査段階から海ごみの問題意識を高めていくことも狙いとした。

(3) 作業手順

調査は、まず1回目の調査を実施し、2週間程度の間隔を空けて2回目の調査を実施した。1回目に散乱しているごみの実態を把握し、2回目に新たなごみの発生状況を確認する手順で進めた。全体の作業工程は以下のとおりとした。

① 調査地点の選定（7～8月）

内陸部

5市3町（倉敷市、総社市、高梁市、新見市、井原市、矢掛町、里庄町、早島町）

海岸部

2市（浅口市、笠岡市）

※倉敷市は2か所、その他の市町は各1か所の計11カ所



② 協力団体等へのヒアリング調査（7～9月）

- ・各市町の環境担当及び協力団体に事前ヒアリングを実施し、ごみの発生状況等の情報を収集



③ 内陸部における川ごみの現地調査（8～12月）

- ・各市町の河川・用排水路及びその周辺地域に散乱しているごみの調査（9カ所）
 - （1）実態把握調査（1回目）
 - （2）発生量調査（2回目）
- ・流入経路の把握



④ 海岸部における海ごみの現地調査（8～12月）

- ・海岸部（本土・島しょ部）に散乱しているごみの調査（2カ所）
 - （1）実態把握調査（1回目）
 - （2）発生量調査（2回目）



⑤ 現地調査結果の分析、報告書の作成（12～2月）



⑥ 啓発用素材としての映像資料等の作成（7～2月）

- ・高梁川流域における海ごみの発生状況や、発生源からの対策の重要性を呼びかける啓発用素材（DVD・パネル）の作成

回収したごみは、「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン（令和2年6月 環境省）」の「分別分類表」に従って分類した。なお、本調査では、ガイドラインにおける大分類の「プラスチック」と「発泡スチロール」を合わせて「プラスチック系のごみ」としている。

【分別分類表】

大分類	必須項目		オプション項目	プラ分類	
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた		ボトルのキャップ、ふた	容器包装	
	ボトル<1L	飲料用（ペットボトル）<1L	飲料用（ペットボトル）<1L	容器包装	
		その他のプラボトル<1L	その他のプラボトル<1L	容器包装	
	ボトル≧1L	飲料用（ペットボトル）≧1L	飲料用（ペットボトル）≧1L	容器包装	
		その他のプラボトル≧1L	その他のプラボトル≧1L	容器包装	
	ストロー		ストロー	製品	
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等		マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	製品	
	食品容器（ファーストフード、コップ、ランチボックス、それらに類するもの）		コップ、食器	容器包装	
			食品容器	容器包装	
	ポリ袋（不透明&透明）		食品の容器包装	容器包装	
			レジ袋	容器包装	
			その他プラスチック袋	容器包装	
	ライター		ライター	製品	
	シリンジ、注射器		シリンジ、注射器	製品	
	テープ（荷造りバンド、ビニールテープ）		テープ（荷造りバンド、ビニールテープ）	製品	
	シートや袋の破片		シートや袋の破片	製品	
	硬質プラスチック破片		硬質プラスチック破片	製品	
	ウレタン		ウレタン	製品	
	ブイ（漁具）		ブイ（漁具）	漁具	
	ロープ、ひも（漁具）		ロープ、ひも（漁具）	漁具	
	アナゴ筒（フタ、筒）（漁具）		アナゴ筒（フタ、筒）（漁具）	漁具	
	カキ養殖用まめ管（長さ1.5cm）（漁具）		カキ養殖用まめ管（長さ1.5cm）（漁具）	漁具	
	カキ養殖用パイプ（長さ10-20cm）（漁具）		カキ養殖用パイプ（長さ10-20cm）（漁具）	漁具	
	漁網（漁具）		漁網（漁具）	漁具	
	その他の漁具（漁具）		釣りのルアー、浮き	漁具	
			かご漁具	漁具	
			釣り糸	漁具	
			その他の漁具	漁具	
	その他		たばこ吸殻（フィルター）	製品	
			生活雑貨（歯ブラシ等）	製品	
花火			製品		
玩具			製品		
プラスチック梱包材			製品		
6バックホルダー			製品		
苗木ポット			製品		
分類に無いもので多数見つかった場合には記載			製品		
その他			製品		
発泡スチロール			コップ、食品包装		食品容器（発泡スチロール）
				コップ、食器（発泡スチロール）	容器包装
		発泡スチロール製フロート、ブイ		発泡スチロール製フロート、ブイ	漁具
		発泡スチロールの破片		発泡スチロールの破片	漁具
		発泡スチロール製包装材		発泡スチロール製包装材	容器包装
		その他		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	
その他				製品	

大分類	必須項目	オプション項目	プラ分類
ゴム	ゴム	タイヤ 玩具、ボール 風船 靴（サンダル、靴底含む） ゴムの破片 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	建築資材 食品容器 ガラス、陶器の破片 食品以外容器 コップ、食器 電球 蛍光管 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
金属	金属	ピンのふた、キャップ、プルタブ アルミの飲料缶 スチール製飲料用缶 金属製コップ、食器 フォーク、ナイフ、スプーン等 その他の缶（ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等） 金属片 ワイヤー、針金 金属製漁具 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器 タバコのパッケージ（フィルム、銀紙を含む） 花火 紙袋 食品包装材 紙製容器（飲料用紙パック等） 紙片（ダンボール、新聞紙等を含む） 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
天然繊維、革	天然繊維、革	ロープ、ひも 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
木（木材等）	木（木材等）	木材（物流用パレット、木炭等含む） 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
電化製品、電子機器	電化製品、電子機器	電化製品、電子機器 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
自然物	自然物	灌木（植物片を含む、径10cm未満、長さ1m未満） 流木（径10cm以上、長さ1m以上） 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	

3. 高梁川流域圏における川ごみ及び海ごみの現地調査

(1) 調査地点の選定

【調査地点1】

調査場所：新見市新見地内（木谷川）

県立新見高校西側の木谷川を調査地点に決定。

新見市生活環境課と調整し、県立新見高校生が、海ごみ削減の取組を進める中で、学校周辺の木谷川のごみ問題に着目し、ポイ捨て禁止を啓発する看板設置を予定しているということで参加を呼び掛け、同校および新見市環境衛生協議会と連携して回収・調査を実施することとした。

木谷川は、高梁川に流入する河川で、両岸はコンクリートで固められているが、川底にはごろ石が散在し、一部土砂が堆積している部分に雑草が生い茂っているところもある。県立新見高校南校地沿いに屈曲する部分から高梁川に至る手前の約400mが調査地点である。調査地点の南半分の川沿いには幅の狭い道路が走っており、通学する高校生や、散歩をする市民の姿が見られた。北半分は、東側が学校地で西側は住宅に面している。ちょうど調査地点の中間部に川を横切る橋が架かっており、住民の車が往来していた。調査地点の上流域も、アパートなどの住宅地に面している状況であった。



位置図



現況写真

【調査地点2】

調査場所：高梁市落合町近似地内（高梁川）

高梁市街地の南部に位置する桔梗緑地周辺の高梁川本流河川敷を調査地点に決定。

高梁市環境課と調整し、毎年高梁市で実施している「高梁川流域クリーン作戦」に、子どもから大人まで多くの方が参加することから、本作戦と連携して実施することとした。今年は10月31日（土）の予定で、分別調査にはスポーツ少年団に協力依頼した。

桔梗緑地は、高梁川本流の河川敷に整備された多目的の広場で、スポーツ少年団が練習で使用するなど、様々な活動の場として市民に親しまれている。調査区域は、緑地の地先に広がる河川敷で、幅約560m、奥行きは最も深いところで約100m。緑地沿いの山際に道路が走っている。また、河川敷には、雑木が点在している。



位置図



現況写真

【調査地点 3】

調査場所：総社市長良地内（砂川）

総社市の東部を流れる砂川堤防の道路沿いを調査地点に決定。

総社市環境課と調整し、地域の方や企業関係者など多くの方が参加する「児島湖流域クリーン作戦」の参加者に声かけし、調査協力を呼び掛けることとした。分別調査は、総社市立総社東中学校と総社西中学校の生徒に協力を依頼した。

調査地点は、砂川沿いを走る幅の狭い道路脇から砂川の土手につながる雑木林の区間約170mを対象とした。

堤防は高さがあり、堤内に雑木が生い茂っている場所である。また、河川の水量は、普段より少量である。近接地に住居はなく、道路幅が狭い場所であるが、南下すると国道や岡山自動車道インターチェンジがあるため、抜け道として通行する方が多いと思われる場所である。



位置図



現況写真

【調査地点 4】

調査場所：矢掛町東川面地内（小田川）

矢掛町内を東西に流れる小田川の道路沿いの河川敷を調査地点に決定。

矢掛町民課と相談し、県立矢掛高校が小田川のごみ問題に関心があるということで参加を呼びかけ、同校と連携して実施することとした。

調査地点は、小田川の堤防敷を走る国道から川側に下りた約140mの範囲を対象とした。堤防高は約5mで、水面近くに幅2~3mの犬走りがある場所である。のり面や犬走りは、丈の低い雑草に覆われていた。水面から近い犬走りは、大雨等で水位が上昇した時には水没すると考えられた。また、国道は乗用車や大型トラックなどが往来する、交通量が多い幹線道路である。



位置図



現況写真

【調査地点5】

調査場所：井原市井原町地内（小田川）

井原市の市街地沿いを南北に流れる小田川の河川敷を調査地点に決定。

井原市環境課と調整し、井原市立高校と連携して実施することとした。同校は、ボランティア活動など地域での活動を積極的に行っており、本調査もその一環として協力いただけることとなった。

調査地点は、校舎からほど近い小田川の河川敷約650mの範囲を対象とした。河川敷には、ごろ石が散乱し、丈の低い草や雑木が散見された。上流域では、川底のしゅんせつ工事が行われていた。河川敷には、幅約4mのコンクリート製の歩道が整備されており、時折散歩の人が見かけられた。また、近隣の住民の生活道路として使われている桜並木で、春には桜まつりが行われる堤防道路沿いも対象とした。



位置図



現況写真

【調査地点6】

調査場所：早島町地内（大川樋門、長津樋門、弁財天ポンプ場、久々原駅東、大隅門、早島駅東）

早島町内を流れる水路の樋門や、ごみを止めるためのスクリーンを張ってある場所を調査地点に決定。

早島町町民課と調整し、18年前からごみの回収を行っているNPO法人宇喜多堤見守り監視隊と連携して実施することとした。監視隊は、毎週水曜日に町内の水路を巡回してごみの回収を行っており、その回収に同行して行うこととした。

調査地点の内、大河樋門、長津樋門、早島駅東の各地点は、住宅地に面しており、交通量の多い道路に接する位置にある。弁財天ポンプ場、久々原駅東、大隅門の各地点は、周囲を田んぼに囲まれた農業用水路で、並行する道路は住民の生活道路となっている。

監視隊によると、継続してごみの回収を行っているため、以前に比べるとごみの量はかなり減っているとのことであった。



位置図



現況写真

【調査地点 7】

調査場所：倉敷市吉岡・黒石地内（吉岡川）

倉敷市の吉岡川の河川敷を調査地点に決定。
倉敷市一般廃棄物対策課と調整し、毎年吉岡川の清掃活動を行っている県立倉敷南高校に協力を呼び掛け、同校の生物園芸部と連携して実施することとした。

吉岡川は、倉敷地区の南部を西から東に向かって流れ、倉敷川と合流する河川である。兩岸の土手はコンクリート製であるが、土に覆われ、丈の低い雑草が生い茂っている。県道の東側の右岸約140mの範囲を対象とした。

調査地点周辺は、県道と市道が交差し、車の往来や通学する学生などの往来が激しい交通量の多い場所である。



位置図



現況写真

【調査地点 8】

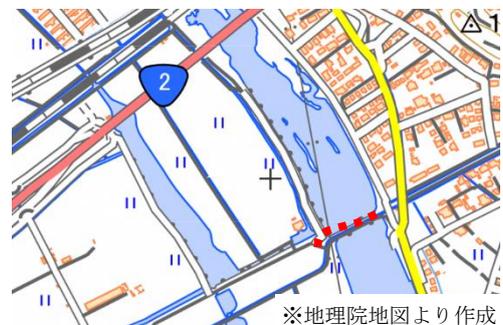
調査場所：倉敷市玉島阿賀崎地内（道口川）

倉敷市玉島地区を流れる道口川の河川敷と、道口川に流れ込む水路の水門の排水口周辺を調査地点に決定。

倉敷市玉島支所産業課と調整し、倉敷医療生協の環境学習活動と連携して実施することとした。

道口川は、玉島北部の農業地帯を通過して、里見川、溜川と合流して玉島港に流れ込む川である。兩岸は雑草が生い茂っており、調査地点付近の川幅は約90mである。玉島地区の市街地を流下した水路が複数流れ込んでおり、調査地点周辺には水門が2か所ある。また、水路が道口川を横断して東から西へ水を送る形状になっており、北から南へ流下する河川の水は水路構造物下の暗渠を通過する形状となっている。

調査地点の道口川左岸堤防の道路は県道から続く生活道路で、交通量が多い道路である。



位置図



現況写真

【調査地点 9】

調査場所：里庄町里見地内（指田川）

里庄町の北部を流れる指田川とその周辺の道路沿いを調査地点に決定。

里庄町町民課と調整し、近くのコンビニが立地する影響か、ポイ捨ての問い合わせがある津江地区を流れる指田川を対象にすることとした。調査の実施にあたっては、11月22日（日）に実施される町内一斉クリーン作戦に合わせることにし、地域住民に参加を呼びかけることにした。

指田川は、里庄町の農業地帯を流れて、里見川に合流する河川である。両岸はコンクリート製だが、川底は砂地が中心で、土留めにじゃかが組まれているところもある。ところどころ土砂の堆積したところに、比較的背丈の高い雑草が茂っているところもある。

川の両岸は、道幅が狭い道路や住宅に接しており、道路の交通量は少ないが、調査地点の最上流部には、交通量が多い県道の橋が架っている。調査は、県道の橋から下流に向かって約420mの区間を対象とした。



※地理院地図より作成
位置図



現況写真

【調査地点 10】

調査場所：浅口市地内（海岸）

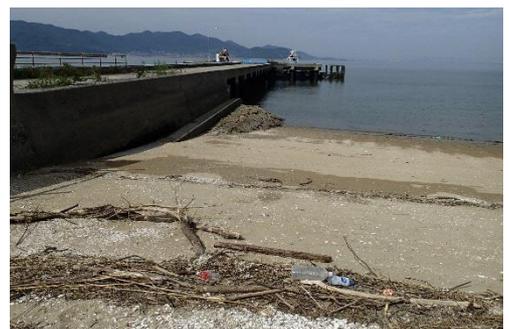
浅口市内で砂浜になっている青佐鼻海岸と三郎海岸を調査地点に決定。

浅口市環境課と調整し、海岸部については、市が月1回（公社）浅口市シルバー人材センターに委託しているごみの回収に合わせて実施することとした。

調査地点は、青佐鼻海岸と三郎海岸の東、西、南側の計4か所を対象とした。三郎海岸は高梁川の河口から約9km東に位置し、青佐鼻海岸と三郎海岸の南側には砂浜が広がり、レジャー客や釣り人の姿が見られるところである。



※地理院地図より作成
位置図



現況写真

【調査地点 1 1】

調査場所：笠岡市白石島地内（海岸）

笠岡市の南部に位置する笠岡諸島の中で、白石島東部の池野原海岸を調査地点に決定。

笠岡市環境課と調整し、海岸ごみの清掃活動に熱心に取り組んでいる笠岡市漁業協同組合白石島支所と連携して実施することとした。同支所では、定期的に海岸清掃を行っており、調査地点についても、6か月前に清掃を実施したとのことであった。

池野原海岸は、幅約200mの海岸で、その背後地には雑木林が広がり、内陸からの通路もなくアクセス困難な場所に立地している。そのため、海岸へのアクセスは、船を使用して海から上陸しなければならない難所である。



位置図



現況写真

以上の調整を踏まえ、調査地点は以下の全11カ所とした。



(2) 現地調査の実施

【調査地点1】

調査場所：新見市新見地内（木谷川）

場所の分類：市街地の水路

1回目 調査日：令和2年10月16日（金） 天候：曇り

2回目 調査日：令和2年11月6日（金） 天候：曇りのち晴れ

協力団体：県立新見高校生、新見市環境衛生協議会

調査人員：1回目26人、2回目2人



回収の様子



分類調査の様子

【調査地点2】

調査場所：高梁市落合町近似地内（高梁川）

場所の分類：広い河川敷

1回目 調査日：令和2年10月31日（土） 天候：晴れ

2回目 調査日：令和2年11月17日（火） 天候：晴れ

協力団体：高梁川流域クリーン作戦参加者、高梁チェリーズ（スポーツ少年団）

調査人員：1回目調査：23人（回収作業：194人）、2回目3人



回収の様子



分類調査の様子

【調査地点3】

調査場所：総社市長良地内（砂川）

場所の分類：道路脇の河川敷

1回目 調査日：令和2年11月1日（日） 天候：晴れのち曇り

2回目 調査日：令和2年11月18日（水） 天候：晴れ

協力団体：児島湖流域清掃大作戦参加者、総社市立総社東中学校、総社市立総社西中学校

調査人員：1回目24人（回収：223人）、2回目2人



回収の様子



分類調査の様子

【調査地点4】

調査場所：矢掛町東川面地内（小田川）

場所の分類：道路脇の河川敷

1回目 調査日：令和2年9月5日（土） 天候：曇りのち晴れ

2回目 調査日：令和2年10月9日（金） 天候：曇り

協力団体：県立矢掛高等学校

調査人員：1回目10人、2回目3人



回収の様子



分類調査の様子

【調査地点5】

調査場所：井原市井原町地内（小田川）

場所の分類：広い河川敷

1回目 調査日：令和2年11月13日（金） 天候：曇り

2回目 調査日：令和2年11月30日（月） 天候：晴れ

協力団体：井原市立高等学校

調査人員：1回目36人、2回目3人



回収の様子



分類調査の様子

【調査地点6】

調査場所：早島町地内（大川樋門、長津樋門、弁財天ポンプ場、久々原駅東、大隅門、早島駅東）

場所の分類：市街地の水路

1回目 調査日：令和2年8月5日（水） 天候：曇りのち晴れ

2回目 調査日：令和2年8月26日（水） 天候：晴れ

協力団体：NPO法人宇喜多堤見守り監視隊

調査人員：1回目8人、2回目6人



回収の様子



分類調査の様子

【調査地点 7】

調査場所：倉敷市吉岡・黒石地内（吉岡川）

場所の分類：道路脇の河川敷

1回目 調査日：令和2年10月31日（土）

天候：晴れ

2回目 調査日：令和2年11月16日（月）

天候：曇りのち晴れ

協力団体：岡山県立倉敷南高等学校

調査人員：1回目6人、2回目5人



回収の様子



分類調査の様子

【調査地点 8】

調査場所：倉敷市玉島阿賀崎地内（道口川）

場所の分類：農地周辺の水路

1回目 調査日：令和2年11月9日（月）

天候：晴れ

2回目 調査日：令和2年11月25日（水）

天候：曇りのち晴れ

協力団体：倉敷医療生活協同組合

調査人員：1回目11人、2回目3人



回収の様子



分類調査の様子

【調査地点 9】

調査場所：里庄町里見地内（指田川）

場所の分類：農地周辺の水路

1回目 調査日：令和2年11月22日（日） 天候：晴れのち雨

2回目 調査日：令和2年12月7日（月） 天候：晴れのち曇り

協力団体：町内一斉清掃参加者、津江町内会

調査人員：1回目6人、2回目2人



回収の様子



分類調査の様子

【調査地点 10】

調査場所：浅口市地内（海岸）

場所の分類：海岸部

1回目 調査日：令和2年11月12日（木） 天候：晴れ

2回目 調査日：令和2年11月25日（水） 天候：曇りのち晴れ

協力団体：浅口市シルバー人材センター

調査人員：1回目5人、2回目3人



回収の様子



分類調査の様子

【調査地点 1 1】

調査場所：笠岡市白石島地内（海岸）

場所の分類：海岸部

1回目 調査日：令和2年9月13日（日） 天候：晴れのち曇り

2回目 調査日：令和2年10月3日（土） 天候：曇り

協力団体：笠岡市漁業協同組合白石島支所

調査人員：1回目10人、2回目3人



回収の様子



分類調査の様子

(3) 現地調査結果と分析

ア. 調査地点ごと

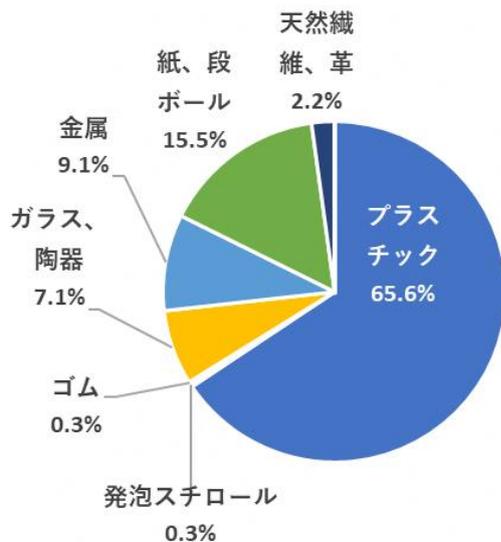
【調査地点1】新見市

大分類	中分類	小分類	1回目(10/16)		2回目(11/6)				
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)	
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	58	144	21	36.2%	64	44.4%	
		ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	60	1,390	15	25.0%	360	25.9%
			その他のプラボトル<1L	12	500	3	25.0%	87	17.4%
			飲料用(ペットボトル)≧1L	2	70	1	50.0%	32	45.7%
	ストロー	ストロー	6	4	0	0.0%	0	0.0%	
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	食品容器	30	387	11	36.7%	113	29.2%	
		ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	44	242	17	38.6%	104	43.0%
	レジ袋		77	2,220	30	39.0%	2,220	100.0%	
	その他プラスチック袋		95	2,580	5	5.3%	51	2.0%	
	ライター	ライター	3	44	0	0.0%	0	0.0%	
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	5	61	0	0.0%	0	0.0%	
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	48	5,598	22	45.8%	221	3.9%	
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	27	887	3	11.1%	29	3.3%	
	ウレタン	ウレタン	1	44	1	100.0%	149	338.6%	
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	13	15	20	153.8%	30	200.0%	
生活雑貨(歯ブラシ等)		28	295	2	7.1%	26	8.8%		
玩具		2	20	0	0.0%	0	0.0%		
苗木ポット		0	0	1		8			
その他		6	98	6	100.0%	194	198.0%		
発泡スチロール	コップ、食品容器	食品容器(発泡スチロール)	0	0	1		10		
	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	2	1	5	250.0%	1	100.0%	
ゴム	ゴム	玩具、ボール	1	14	0	0.0%	0	0.0%	
		靴(サンダル、靴底含む)	0	0	4		613		
		その他	1	15	0	0.0%	0	0.0%	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	40	4,460	19	47.5%	2,180	48.9%	
		ガラス、陶器の破片	14	1,368	0	0.0%	0	0.0%	
		その他	2	419	0	0.0%	0	0.0%	
金属	金属	ピンのふた、キャップ、プルタブ	38	64	18	47.4%	29	45.3%	
		アルミの飲料缶	10	180	0	0.0%	0	0.0%	
		スチール製飲料用缶	0	0	1		48		
		ワイヤー、針金	3	35	1	33.3%	7	20.0%	
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	21	4,149	0	0.0%	0	0.0%	
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器	2	20	5	250.0%	61	305.0%	
		タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	14	140	1	7.1%	18	12.9%	
		紙袋	4	122	0	0.0%	0	0.0%	
		紙製容器(飲料用紙パック等)	2	40	3	150.0%	141	352.5%	
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	100	2,900	40	40.0%	1,948	67.2%	
天然繊維、革	天然繊維、革	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	2	200	11	550.0%	1,860	930.0%	
		その他	15	979	0	0.0%	0	0.0%	
自然物	自然物	その他	0	0	2		27		
合計			788	29,705	269	34.1%	10,631	35.8%	

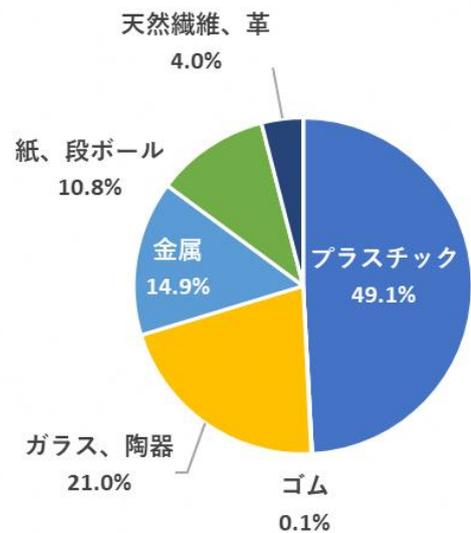
○大分類集計表（1回目）

地点1	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	517	2	2	56	72	122	17	0	0	0
重量(g)	14,599	1	29	6,247	4,428	3,222	1,179	0	0	0

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（788個）の種類別内訳



回収したごみ（29,705g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック」と「発泡スチロール」を合わせた「プラスチック系のごみ」が65.9%、次いで「紙、ダンボール」122個（15.5%）、「金属」72個（9.1%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で、最も多かったのは「その他プラスチック袋」95個（12.1%）、次いで「レジ袋」77個（9.8%）、「飲料用ペットボトル<1L」60個（7.6%）の順であった。

種類別の重量では、「プラスチック系のごみ」が14,600g（49.1%）で最も重く、次いで「ガラス、陶器」6,247g（21.0%）、「金属」4,428g（14.9%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「シートや袋の破片」が5,598g（18.8%）で最も割合が高かった。

飲料用のペットボトルやビン、レジ袋など、日常生活から排出されたと考えられるものが多数を占めていた。中には、同じ銘柄のペットボトルや特定の栄養ドリンクのビン、洗剤の入れ物と詰替用の容器、ポリ袋に詰めたティッシュペーパーやストッキングなど、特定の方がまとめて捨てたと思われるものがあった。

その他、「シートや袋の破片」の重量が大きかったのは、大きなブルーシートが回収されたことと、「金属」では、金属の棒のようなものが複数回収されていた。

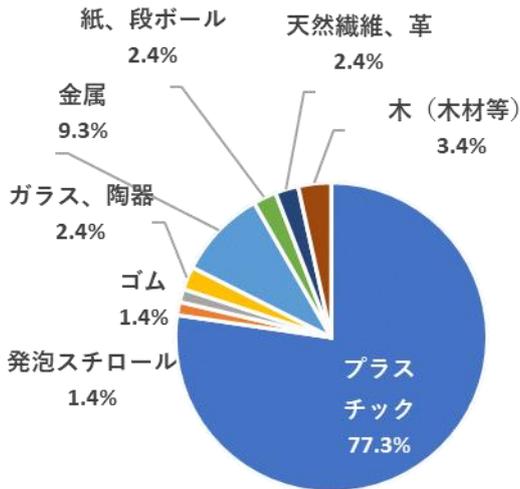
【調査地点2】高梁市

大分類	中分類	小分類	1回目(10/31)		2回目(11/17)			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	2	4	1	50.0%	2	50.0%
		ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	0	0	2		40
	飲料用(ペットボトル)≥1L		4	120	0	0.0%	0	0.0%
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	0	0	2		22	
		食品容器	2	14	0	0.0%	0	0.0%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	7	29	3	42.9%	22	75.9%
		レジ袋	8	264	1	12.5%	7	2.7%
		その他プラスチック袋	76	827	1	1.3%	36	4.4%
	ライター	ライター	1	8	0	0.0%	0	0.0%
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	5	8	0	0.0%	0	0.0%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	86	260	9	10.5%	22	8.5%
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	29	660	0	0.0%	0	0.0%
その他	たばこ吸殻(フィルター)	4	2	21	525.0%	5	250.0%	
	玩具	1	2	0	0.0%	0	0.0%	
発泡スチロール	コップ、食品容器	食品容器(発泡スチロール)	0	0	3		77	
	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	4	7	0	0.0%	0	0.0%
ゴム	ゴム	タイヤ	1	15,000	0	0.0%	0	0.0%
		玩具、ボール	0	0	1		135	
		ゴムの破片	3	112	0	0.0%	0	0.0%
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	1	40	4	400.0%	381	952.5%
		ガラス、陶器の破片	4	120	0	0.0%	0	0.0%
		その他	2	11	0	0.0%	0	0.0%
金属	金属	ビンのふた、キャップ、プルタブ	2	5	2	100.0%	1	20.0%
		アルミの飲料缶	9	120	1	11.1%	45	37.5%
		金属片	15	1,190	0	0.0%	0	0.0%
		ワイヤー、針金	1	6	0	0.0%	0	
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	0	0	1		2,655	
紙、ダンボール	紙、ダンボール	タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	2	11	1	50.0%	2	18.2%
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	5	89	3	60.0%	1	1.1%
天然繊維、革	天然繊維、革	ロープ、ひも	5	8	0	0.0%	0	0.0%
		その他	2	396	0	0.0%	0	0.0%
木(木材等)	木(木材等)	木材(物流用パレット、木炭等含む)	10	91	0	0.0%	0	0.0%
合計			291	19,404	56	19.2%	3,453	17.8%

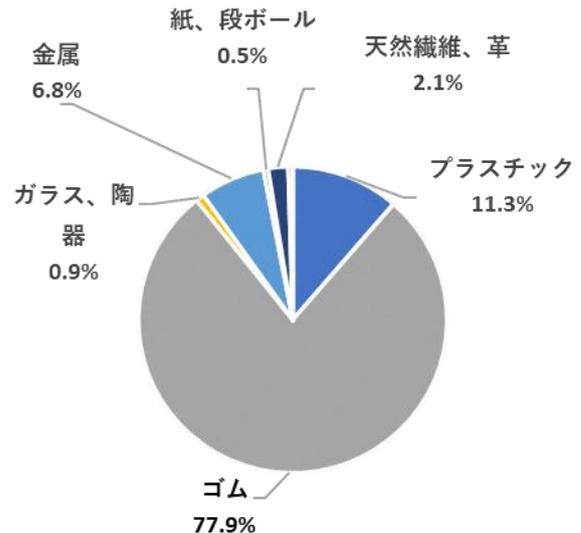
○大分類集計表（1回目）

地点2	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	225	4	4	7	27	7	7	10	0	0
重量(g)	2,198	7	15,112	171	1,321	100	404	91	0	0

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（291個）の種類別内訳



回収したごみ（19,404g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が229個（78.7%）、次いで「金属」27個（9.3%）、「木（木材等）」10個（3.4%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「シートや袋の破片」で86個（29.6%）であった。

種類別の重量では、「ゴム」が15,112g（77.9%）で最も重く、次いで「プラスチック系のごみ」2,205g（11.4%）、「金属」1,321g（6.8%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「その他プラスチック袋」が827g（4.3%）で最も割合が高かった。重量で「ゴム」の割合が高かったのは、15kgの車のタイヤが含まれていたためである。

「シートや袋の破片」が86個（29.6%）、「その他プラスチック袋」が76個（26.1%）、合わせて162個（55.7%）と、個数では袋やシートが半数以上を占めていた。これは、河川敷の雑木などに引っかかって劣化しているものが、多数回収されたためである。重量では、「ゴム」のタイヤを除いては「金属」の「金属片」が1,190g（6.1%）と最も割合が高く、これは発生量調査2回目でも「金属」が約8割を占め、同様の傾向であった。発生量調査では、1回目に対する2回目の割合が、個数、重量とも2割程度と少量であった。これは調査期間中に河川敷まで増水する機会がなく、新たにごみの流入がほとんどなかったためと考えられる。

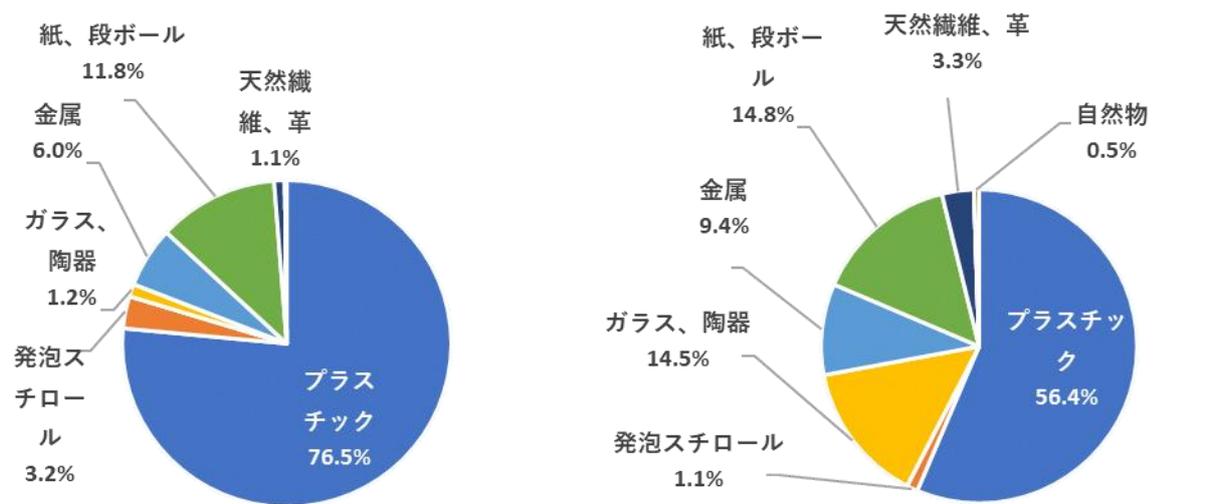
【調査地点3】総社市

大分類	中分類	小分類	1回目(11/1)		2回目(11/18)			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	80	200	2	2.5%	5	2.5%
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	95	3,900	2	2.1%	59	1.5%
		飲料用(ペットボトル)≥1L	3	140	0	0.0%	0	0.0%
	ストロー	ストロー	5	3	0	0.0%	0	0.0%
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	12	180	0	0.0%	0	0.0%
		食品容器	40	770	0	0.0%	0	0.0%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	24	182	5	20.8%	38	20.9%
		レジ袋	96	356	3	3.1%	25	7.0%
		その他プラスチック袋	62	560	0	0.0%	0	0.0%
	ライター	ライター	0	0	1		44	
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	1	2	3	300.0%	7	350.0%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	1	0	15	1500.0%	16	
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	1	200	21	2100.0%	26	13.0%
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	2	0	27	1350.0%	15	
生活雑貨(歯ブラシ等)		5	374	0	0.0%	0	0.0%	
苗木ポット		4	43	0	0.0%	0	0.0%	
その他		2	24	2	100.0%	13	54.2%	
発泡スチロール	コップ、食品容器	食品容器(発泡スチロール)	18	141	0	0.0%	0	0.0%
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	0	0	1		142	
		ガラス、陶器の破片	0	0	2		3	
		食品以外容器	5	1,300	0	0.0%	0	0.0%
		その他	2	484	0	0.0%	0	0.0%
金属	金属	ビンのふた、キャップ、プルタブ	4	141	3	75.0%	5	3.5%
		アルミの飲料缶	8	400	0	0.0%	0	0.0%
		スチール製飲料用缶	19	610	2	10.5%	63	10.3%
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	2	3	0	0.0%	0	0.0%
		その他	1	1	2	200.0%	4	400.0%
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器	3	44	0	0.0%	0	0.0%
		タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	6	41	0	0.0%	0	0.0%
		紙袋	1	13	0	0.0%	0	0.0%
		食品包装材	5	71	1	20.0%	15	21.1%
		紙製容器(飲料用紙パック等)	9	600	0	0.0%	0	0.0%
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	42	802	9	21.4%	193	24.1%
		その他	1	243	0	0.0%	0	0.0%
天然繊維、革	天然繊維、革	ロープ、ひも	1	3	0	0.0%	0	0.0%
		その他	5	400	1	20.0%	8	2.0%
自然物	自然物	その他	1	63	0	0.0%	0	0.0%
合計			566	12,294	102	18.0%	681	5.5%

○大分類集計表（1回目）

地点3	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	433	18	0	7	34	67	6	0	0	1
重量(g)	6,934	141	0	1,784	1,155	1,814	403	0	0	63

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（566個）の種類別内訳

回収したごみ（12,294g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が451個（79.7%）、次いで「紙、ダンボール」67個（11.8%）、「金属」34個（6.0%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「レジ袋」で96個（17.0%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」が7,075g（57.5%）で最も重く、次いで「紙、ダンボール」1,814g（14.8%）、「ガラス、陶器」1,784g（14.5%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「飲料用ペットボトル<1L」が3,900g（31.7%）で最も割合が高かった。

「レジ袋」に次いで個数が多かったのは「飲料用ペットボトル<1L」95個、「ボトルのキャップ、ふた」80個、「その他プラスチック袋」62個、「食品容器」40個となっており、飲食した後にポイ捨てされたと考えられるごみが多かった。堤防道路の高さまで水が増水する機会がまれであることを踏まえると、上流から流れ着いたごみとは考えにくく、道路上から不法投棄されたものと推察される。発生量調査では、1回目に対する2回目の割合が個数で18%、重量では5%程度となっており、2週間程度の短期間では、それほど増えなかったと考えられる。

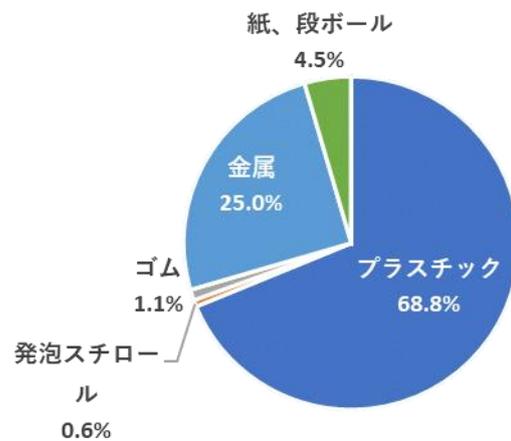
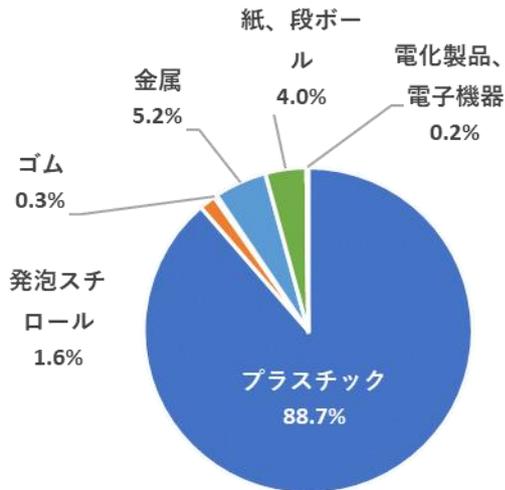
【調査地点4】矢掛町

大分類	中分類	小分類	1回目(9/5)		2回目(10/9)			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	13	32	4	30.8%	8	25.0%
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	11	510	3	27.3%	48	9.4%
		その他のプラボトル<1L	1	73	0	0.0%	0	0.0%
	ストロー	ストロー	3	3	2	66.7%	2	66.7%
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	1	3	0	0.0%	0	0.0%
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	食品容器	1	17	0	0.0%	0	0.0%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	35	120	10	28.6%	15	12.5%
		その他プラスチック袋	1	140	0	0.0%	0	0.0%
	ライター	ライター	1	13	0	0.0%	0	0.0%
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	2	7	0	0.0%	0	0.0%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	369	1,190	82	22.2%	63	5.3%
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	18	76	16	88.9%	75	98.7%
	ウレタン	ウレタン	0	0	2		20	
	その他の漁具(漁具)	釣り糸	1	8	0	0.0%	0	0.0%
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	87	24	97	111.5%	22	91.7%
生活雑貨(歯ブラシ等)		2	3	1	50.0%	14	466.7%	
分類に無いもので多数見つけた場合には記載		0	0	3		2		
その他		2	8	3	150.0%	32	400.0%	
発泡スチロール	発泡スチロール製フロート、浮子(ブイ)	発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)	0	0	8		5	
	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	10	21	0	0.0%	0	0.0%
ゴム	ゴム	ゴムの破片	1	3	2	200.0%	42	1400.0%
		その他	1	31	0	0.0%	0	0.0%
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	0	0	1		100	
		ガラス、陶器の破片	0	0	1		17	
金属	金属	ビンのふた、キャップ、プルタブ	2	4	2	100.0%	3	75.0%
		アルミの飲料缶	17	263	2	11.8%	32	12.2%
		スチール製飲料用缶	10	286	2	20.0%	66	23.1%
		その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)	1	106	0	0.0%	0	0.0%
		分類に無いもので多数見つけた場合には記載	0	0	1		6	
		その他	2	151	0	0.0%	0	0.0%
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器	1	5	0	0.0%	0	0.0%
		タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	7	30	6	85.7%	75	250.0%
		紙製容器(飲料用紙パック等)	4	73	1	25.0%	13	17.8%
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	10	17	33	330.0%	38	223.5%
		分類に無いもので多数見つけた場合には記載	3	21	0	0.0%	0	0.0%
天然繊維、革	天然繊維、革	その他	0	0	2		4	
電化製品、電子機器	電化製品、電子機器	電化製品、電子機器	1	0	0	0.0%	0	
		その他	0	0	1		13	
合計			618	3,238	285	46.1%	715	22.1%

○大分類集計表（1回目）

地点4	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	548	10	2	0	32	25	0	0	1	0
重量(g)	2,227	21	34	0	810	146	0	0	0	0

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が558個（90.3%）、次いで「金属」32個（5.2%）、「紙、ダンボール」25個（4.0%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「シートや袋の破片」で369個（59.7%）、次いで「たばこ吸殻（フィルター）」87個（14.1%）が続いた。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」が2,248g（69.4%）で最も重く、次いで「金属」810g（25.0%）、「紙、ダンボール」146g（4.5%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「シートや袋の破片」が1,190g（36.8%）で最も割合が高く、次いで「飲料用ペットボトル<1L」510g（15.8%）が続いた。

これは発生量調査でも同様の傾向が見られ、2回目調査では「たばこ吸殻（フィルター）」が97個（34.0%）、「シートや袋の破片」82個（28.8%）となり、個数の1位・2位の品目に変化がなかった。「たばこ吸殻（フィルター）」は、そのほとんどが国道脇の堤防上部で回収されたもので、交通量の多い国道を走る車両や通行人等によるポイ捨ての可能性が高いと考えられる。

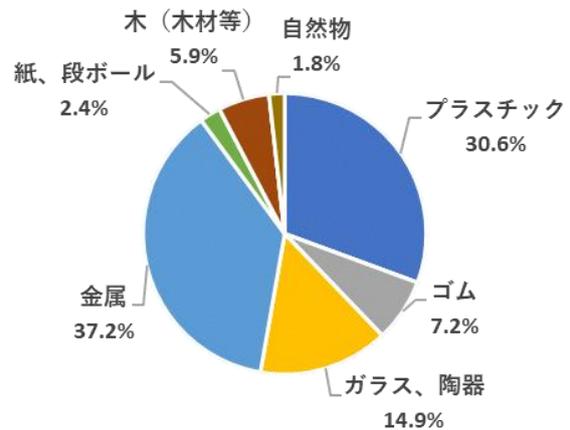
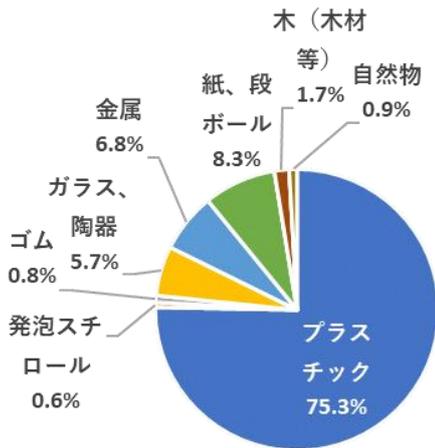
【調査地点5】井原市

大分類	中分類	小分類	1回目(11/13)		2回目(11/30)			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	15	0	2	13.3%	5	
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	1	0	2	200.0%	53	
		飲料用(ペットボトル)≧1L	16	840	0	0.0%	0	0.0%
	ストロー	ストロー	12	1	0	0.0%	0	0.0%
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	26	500	0	0.0%	0	0.0%
		食品容器	15	294	1	6.7%	11	3.7%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	80	200	16	20.0%	6	3.0%
		レジ袋	15	140	1	6.7%	10	7.1%
		その他プラスチック袋	40	440	3	7.5%	9	2.0%
	ライター	ライター	2	80	0	0	0	0
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	0	0	6		9	
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	42	68	33	78.6%	42	61.8%
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	233	5,050	32	13.7%	283	5.6%
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	159	308	107	67.3%	32	10.4%
生活雑貨(歯ブラシ等)		3	120	0	0.0%	0	0.0%	
苗木ポット		2	80	0	0.0%	0	0.0%	
その他		13	194	0	0.0%	0	0.0%	
発泡スチロール	コップ、食品容器	食品容器(発泡スチロール)	5	2	0	0.0%	0	0.0%
ゴム	ゴム	玩具、ボール	1	46	0	0.0%	0	0.0%
		靴(サンダル、靴底含む)	1	40	0	0.0%	0	0.0%
		ゴムの破片	0	0	1		21	
		その他	5	1,880	0	0.0%	0	0.0%
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	5	2,600	0	0.0%	0	0.0%
		ガラス、陶器の破片	46	1,431	10	21.7%	156	10.9%
金属	金属	ビンのふた、キャップ、プルタブ	7	500	0	0.0%	0	0.0%
		アルミの飲料缶	11	1,000	2	18.2%	63	6.3%
		スチール製飲料用缶	6	760	0	0.0%	0	0.0%
		金属片	24	600	3	12.5%	143	23.8%
		ワイヤー、針金	2	100	0	0.0%	0	0.0%
		その他	11	7,140	1	9.1%	2	0.0%
紙、ダンボール	紙、ダンボール	タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	10	86	6	60.0%	53	61.6%
		花火	1	1	2	200.0%	4	400.0%
		食品包装材	23	280	0	0.0%	0	0.0%
		紙製容器(飲料用紙パック等)	1	7	0	0.0%	0	0.0%
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	39	278	15	38.5%	11	4.0%
木(木材等)	木(木材等)	木材(物流用パレット、木炭等含む)	0	0	1		732	
		その他	15	1,592	2	13.3%	99	6.2%
自然物	自然物	その他	8	480	0	0.0%	0	0.0%
合計			895	27,138	246	27.5%	1,744	6.4%

○大分類集計表（1回目）

地点5	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	674	5	7	51	61	74	0	15	0	8
重量(g)	8,315	2	1,966	4,031	10,100	652	0	1,592	0	480

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（895個）の種類別内訳

回収したごみ（27,138g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が679個（75.9%）、次いで「紙、ダンボール」74個（8.3%）、「金属」61個（6.8%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「硬質プラスチックの破片」で233個（26.0%）であった。

種類別の重量では、「金属」が10,100g（37.2%）で最も重く、次いで「プラスチック系のごみ」8,317g（30.6%）、「ガラス、陶器」4,031g（14.9%）の順であった。「金属」の割合が高くなっているのは、バーベキューコンロのようなものをはじめとした、大きな金属の塊が回収されたためである。これらは、小田川に掛かる橋のたもとで回収されており、人目につきにくいところで不法投棄されたものと考えられる。

最も個数の多かった「硬質プラスチックの破片」は、農業用の畔板の破片と思われるものが多かった。その他、「たばこ吸殻（フィルター）」が159個（17.8%）と多く、これは堤防道路の脇や小田川に掛かる橋のたもとなどで多く回収された。全体の15.1%を占めた「ポリ袋（透明、不透明）」の中で、最も多い「食品の容器包装」では、同じ銘柄の飴の袋が多く回収されるなど偏りが見られた。

発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数が約27%、重量が約6%と低かった。これは、調査期間中に雨で河川敷まで増水するような機会がなく、新たなごみの発生がほとんどなかったためと考えられる。一方、「たばこ吸殻（フィルター）」は1回目の159個に対し2回目も107個と、ともに多数回収されたが、これは、遊歩道などを通行する人によるポイ捨ての可能性が高いと考えられる。

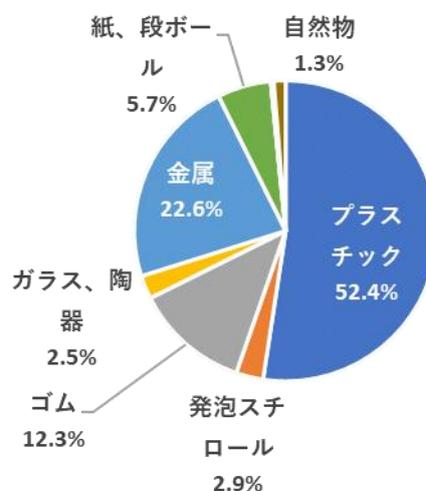
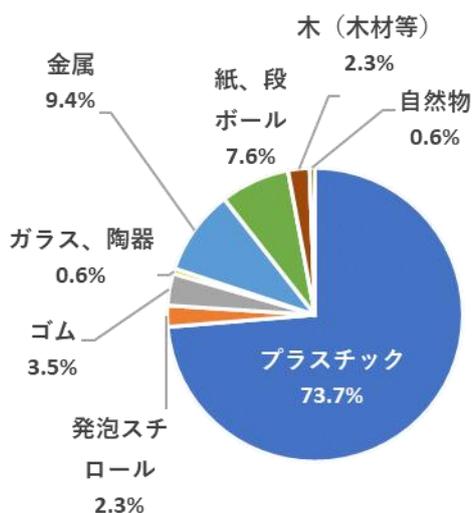
【調査地点6】早島町

大分類	中分類	小分類	1回目(8/5)		2回目(8/26)			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	9	22	8	88.9%	22	100.0%
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	10	340	7	70.0%	226	66.5%
		その他のプラボトル<1L	0	0	3		60	
		飲料用(ペットボトル)≥1L	1	90	2	200.0%	108	120.0%
	ストロー	ストロー	5	12	1	20.0%	1	8.3%
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	9	50	1	11.1%	20	40.0%
		食品容器	12	128	7	58.3%	104	81.3%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	28	389	21	75.0%	324	83.3%
		レジ袋	5	216	13	260.0%	750	347.2%
		その他プラスチック袋	17	312	10	58.8%	290	92.9%
	ライター	ライター	1	19	0	0.0%	0	0.0%
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	1	25	0	0.0%	0	0.0%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	8	182	4	50.0%	41	22.5%
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	3	142	4	133.3%	629	443.0%
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	2	6	6	300.0%	6	100.0%
生活雑貨(歯ブラシ等)		3	43	6	200.0%	460	1069.8%	
プラスチック梱包材		0	0	1		40		
その他		12	532	3	25.0%	102	19.2%	
発泡スチロール	コップ、食品容器	食品容器(発泡スチロール)	0	0	1		8	
	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	4	139	4	100.0%	17	12.2%
		玩具、ボール	2	180	1	50.0%	4	2.2%
		靴(サンダル、靴底含む)	1	320	1	100.0%	340	106.3%
		ゴムの破片	1	47	0	0.0%	0	0.0%
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	2	43	0	0.0%	0	0.0%
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	1	120	2	200.0%	567	472.5%
		食品以外容器	0	0	1		100	
		蛍光管	0	0	1		250	
金属	金属	ピンのふた、キャップ、プルタブ	0	0	3		13	
		アルミの飲料缶	13	800	9	69.2%	232	29.0%
		スチール製飲料用缶	3	280	3	100.0%	260	92.9%
紙、ダンボール	紙、ダンボール	タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	4	76	1	25.0%	17	22.4%
		食品包装材	0	0	1		4	
		紙製容器(飲料用紙パック等)	7	171	1	14.3%	63	36.8%
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	2	27	0	0.0%	0	0.0%
		その他	0	0	2		120	
木(木材等)	木(木材等)	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	0	0	4		8	
		その他	4	16	13	325.0%	2,759	17243.8%
自然物	自然物	その他	1	60	0	0.0%	0	0.0%
合計			171	4,787	145	84.8%	7,945	166.0%

○大分類集計表（1回目）

地点6	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	126	4	6	1	16	13	0	4	0	1
重量(g)	2,508	139	590	120	1,080	274	0	16	0	60

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（171個）の種類別内訳

回収したごみ（4,787g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が130個（76.0%）、次いで「金属」16個（9.4%）、「紙、ダンボール」13個（7.6%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「食品の容器包装」28個（16.4%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」が2,647g（55.3%）で最も重く、次いで「金属」1,080g（22.6%）、「ゴム」590g（12.3%）の順であった。

「プラスチック系のごみ」の内訳では、「食品の容器包装」が389g（8.1%）で最も割合が高かった。

回収したごみの中では、お菓子の袋などの「食品の容器包装」、「飲料用ペットボトル<1L」、「アルミの飲料缶」、弁当ガラなどの「食品容器」が多く、生活の中でポイ捨てされたものが水路を流れ、水門やスクリーンに溜まったものと考えられる。

発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数84.8%、重量166.0%であった。回収されたごみの内訳は、ほぼ同様の傾向であり、かつ、調査期間中の水路の流量に大きな変化はなかったことを踏まえると、恒常的にごみが発生していると考えられる。

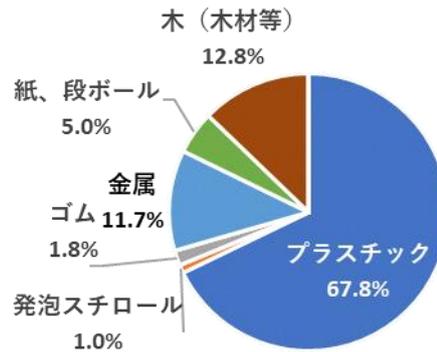
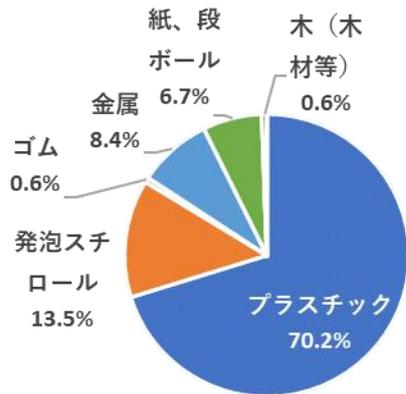
【調査地点7】倉敷市（吉岡川）

大分類	中分類	小分類	1回目(10/31)		2回目(11/16)				
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)	
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	37	90	2	5.4%	5	5.6%	
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	38	960	2	5.3%	28	2.9%	
	ストロー	ストロー	2	3	6	300.0%	6	200.0%	
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器		0	0	1		18	
		食品容器		3	60	1	33.3%	19	31.7%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装		7	73	19	271.4%	30	41.1%
		レジ袋		2	33	1	50.0%	5	15.2%
		その他プラスチック袋		17	11	6	35.3%	5	45.5%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	0	0	102		78		
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	7	28	15	214.3%	16	57.1%	
	その他	たばこ吸殻(フィルター)		8	1	53	662.5%	34	3400.0%
生活雑貨(歯ブラシ等)			0	0	1		7		
その他			4	17	2	50.0%	32	188.2%	
発泡スチロール	コップ、食品容器	食品容器(発泡スチロール)	2	1	0	0.0%	0	0.0%	
	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	22	17	46	209.1%	11	64.7%	
ゴム	ゴム	玩具、ボール	1	33	0	0.0%	0	0.0%	
金属	金属	ピンのふた、キャップ、プルタブ	6	16	0	0.0%	0	0.0%	
		アルミの飲料缶	7	133	1	14.3%	48	36.1%	
		スチール製飲料用缶	1	31	1	100.0%	33	106.5%	
		その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)	1	41	0	0.0%	0	0.0%	
		金属製漁具	0	0	1		16		
		その他	0	0	2		23		
紙、ダンボール	紙、ダンボール	タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	0	0	1		6		
		紙製容器(飲料用紙パック等)	2	72	0	0.0%	0	0.0%	
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	10	22	13	130.0%	20	90.9%	
木(木材等)	木(木材等)	その他	1	240	0	0.0%	0	0.0%	
自然物	自然物	灌木(植物片を含む、径10cm未満、長さ1m未満)	0	0	1		181		
合計			178	1,882	277	155.6%	621	33.0%	

○大分類集計表（1回目）

地点7	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	125	24	1	0	15	12	0	1	0	0
重量(g)	1,276	18	33	0	221	94	0	240	0	0

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（178個）の種類別内訳

回収したごみ（1,882g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が149個（83.7%）、次いで「金属」15個（8.4%）、「紙、ダンボール」12個（6.7%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「飲料用ペットボトル<1L」38個（21.3%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」が1,294g（68.8%）で最も重く、次いで「木（木材等）」240g（12.8%）、「金属」221g（11.7%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「飲料用ペットボトル<1L」が960g（51.0%）で最も割合が高かった。

発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数が155.6%と増加したのに対し、重量は33.0%と減少した。個数が増加した要因は、1回目では確認されなかった「シートや袋の破片」が102個に増加したことと、「たばこ吸殻（フィルター）」が8個から53個に増加したことである。これらは、調査期間中に投棄されたものと、1回目の調査で見落とされたものが含まれているためと考えられる。

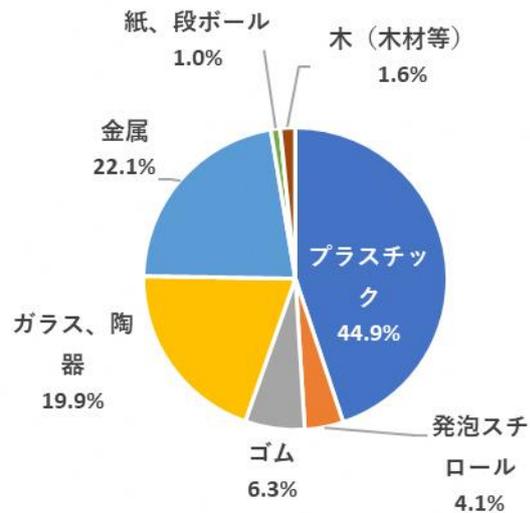
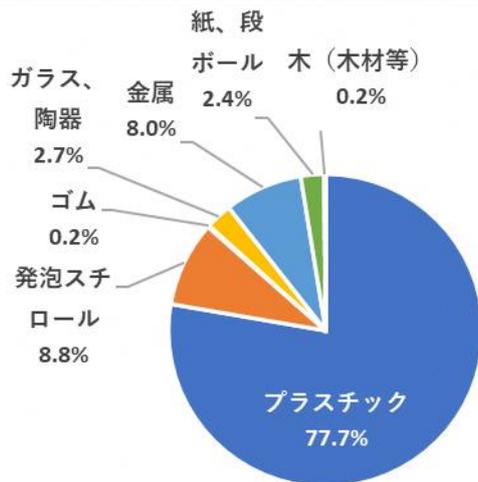
【調査地点8】倉敷市（道口川）

大分類	中分類	小分類	1回目(11/9)		2回目(11/25)			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	0	0	46		125	
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	93	653	48	51.6%	1,900	291.0%
		飲料用(ペットボトル)≧1L	82	2,300	5	6.1%	600	26.1%
	ストロー	ストロー	0	0	2		2	
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	9	111	2	22.2%	39	35.1%
		食品容器	32	240	14	43.8%	140	58.3%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	12	75	15	125.0%	100	133.3%
		レジ袋	2	32	6	300.0%	120	375.0%
		その他プラスチック袋	6	447	1	16.7%	5	1.1%
	ライター	ライター	1	17	1	100.0%	14	82.4%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	130	1,625	23	17.7%	40	2.5%
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	7	52	66	942.9%	128	246.2%
	ウレタン	ウレタン	1	9	4	400.0%	57	633.3%
	その他の漁具(漁具)	その他の漁具	3	171	0	0.0%	0	0.0%
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	92	41	5	5.4%	4	9.8%
		生活雑貨(歯ブラシ等)	6	40	16	266.7%	512	1280.0%
苗木ポット		0	0	1		6		
その他		9	24	2	22.2%	21	87.5%	
発泡スチロール	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	55	535	78	141.8%	260	48.6%
ゴム	ゴム	玩具、ボール	0	0	7		500	
		靴(サンダル、靴底含む)	1	823	0	0.0%	0	0.0%
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	0	0	5		619	
		ガラス、陶器の破片	16	2,579	8	50.0%	192	7.4%
		食品以外容器	0	0	2		143	
		電球	1	10	0	0.0%	0	0.0%
金属	金属	ピンのふた、キャップ、プルタブ	11	50	5	45.5%	6	12.0%
		アルミの飲料缶	33	1,174	42	127.3%	2,600	221.5%
		スチール製飲料用缶	1	50	5	500.0%	268	536.0%
		その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)	2	195	4	200.0%	811	415.9%
		その他	3	1,407	3	100.0%	1	0.1%
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器	1	16	0	0.0%	0	0.0%
		タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	8	77	0	0.0%	0	0.0%
		紙製容器(飲料用紙パック等)	1	24	0	0.0%	0	0.0%
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	5	13	7	140.0%	49	376.9%
木(木材等)	木(木材等)	木材(物流用パレット、木炭等含む)	1	207	5	500.0%	489	236.2%
合計			624	12,997	428	68.6%	9,751	75.0%

○大分類集計表（1回目）

地点8	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	485	55	1	17	50	15	0	1	0	0
重量(g)	5,837	535	823	2,589	2,876	130	0	207	0	0

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（624個）の種類別内訳

回収したごみ（12,997g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が540個（86.5%）、次いで「金属」50個（8.0%）、「ガラス、陶器」17個（2.7%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「シートや袋の破片」130個（20.8%）で、次いで「飲料用ペットボトル<1L」93個（14.9%）、「たばこ吸殻（フィルター）」92個（17.4%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」が6,372g（49.0%）で最も重く、次いで「金属」2,876g（22.1%）、「ガラス、陶器」2,589g（19.9%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「飲料用ペットボトル≥1L」が2,300g（17.7%）で最も割合が高かった。

農業用水路の周辺ではあるが、農業系のごみは、回収対象外のプラ製肥料殻を除き、ほとんど確認されなかった。周辺の農地や市街地を抜けて道口川に流入する水門付近に大量のごみが溜まっていた。発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数68.6%、重量75.0%であった。

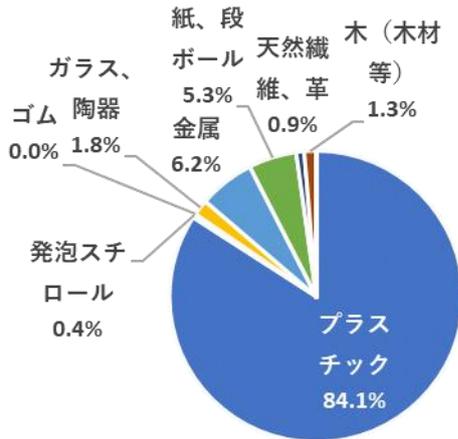
【調査地9】里庄町

大分類	中分類	小分類	1回目(11/22)		2回目(12/7)			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	3	7	0	0.0%	0	0.0%
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	3	68	2	1	62	1
		飲料用(ペットボトル)≥1L	1	49	0	0	0	0
	ストロー	ストロー	1	1	0	0.0%	0	0.0%
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	0	0	1		15	
		食品容器	3	29	0	0.0%	0	0.0%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	5	6	5	100.0%	14	233.3%
		レジ袋	2	48	1	50.0%	37	77.1%
		その他プラスチック袋	4	174	2	50.0%	66	37.9%
	ライター	ライター	1	15	0	0.0%	0	0.0%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	142	1,690	16	11.3%	55	3.3%
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	8	290	6	75.0%	229	79.0%
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	12	5	12	100.0%	10	200.0%
生活雑貨(歯ブラシ等)		2	13	0	0.0%	0	0.0%	
その他		4	17	1	25.0%	8	47.1%	
発泡スチロール	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	1	1	0	0.0%	0	0.0%
ゴム	ゴム	その他	0	0	2		61	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	0	0	2		487	
		ガラス、陶器の破片	4	186	14	350.0%	631	339.2%
金属	金属	ピンのふた、キャップ、プルタブ	1	6	2	200.0%	4	66.7%
		アルミの飲料缶	8	341	2	25.0%	68	19.9%
		スチール製飲料用缶	2	82	0	0.0%	0	0.0%
		金属片	2	4	0	0.0%	0	0.0%
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	0	0	12		11	
		その他	1	1,500	1	100.0%	100	6.7%
紙、ダンボール	紙、段ボール	紙製コップ、食器	1	8	0	0.0%	0	0.0%
		タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	1	5	1	100.0%	9	180.0%
		紙製容器(飲料用紙パック等)	1	13	0	0.0%	0	0.0%
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	9	38	6	66.7%	28	73.7%
天然繊維、革	天然繊維、革	その他	2	89	0	0.0%	0	0.0%
木(木材等)	木(木材等)	木材(物流用パレット、木炭等含む)	3	480	0	0.0%	0	0.0%
合計			227	5,165	88	38.8%	1,895	36.7%

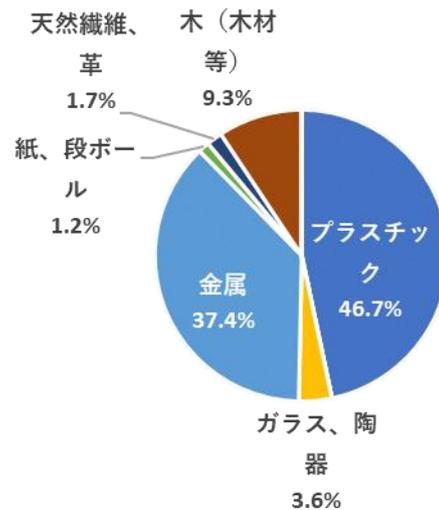
○大分類集計表（1回目）

地点9	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	191	1	0	4	14	12	2	3	0	0
重量(g)	2,412	1	0	186	1,933	64	89	480	0	0

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（227個）の種類別内訳



回収したごみ（5,165g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が192個（84.5%）、次いで「金属」14個（6.2%）、「紙、ダンボール」12個（5.3%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「シートや袋の破片」で142個（62.6%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」が2,413g（46.7%）で最も重く、次いで「金属」1,933g（37.4%）、「木（木材等）」480g（9.3%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「シートや袋の破片」が1,690g（32.7%）で最も割合が高かった。

回収されたごみの中では、「シートや袋の破片」が圧倒的に多くかった。これらの多くは、雑木や雑草の中に埋もれていたもので、劣化も進んでいた。「ペットボトル」が4個、「食品容器」3個と、生活系ごみは少なく、農業で使用するシートの破片などが多かった。

発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数38.8%、重量36.7%であった。農閑期で、かつ、河川の水量が少ないこともあり、上流から新たなごみの流入が少なかったと考えられる。

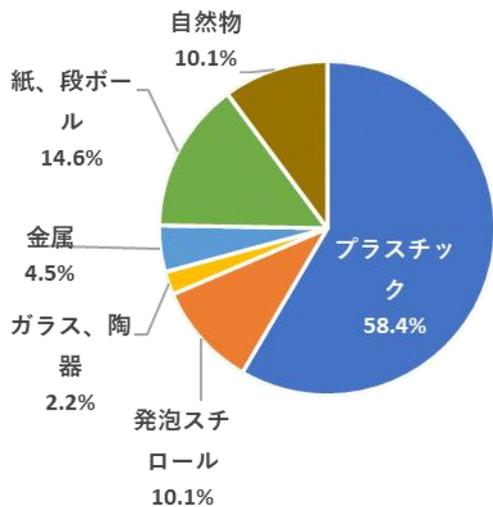
【調査地点10】浅口市

大分類	中分類	小分類	1回目(11/12)		2回目(11/25)			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	9	22	10	111.1%	24	109.1%
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	10	270	11	110.0%	259	95.9%
		飲料用(ペットボトル)≥1L	0	0	1		34	
	ストロー	ストロー	1	1	1	100.0%	1	100.0%
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ・食器	1	29	1	100.0%	40	137.9%
		食品容器	4	35	2	50.0%	27	77.1%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	4	157	3	75.0%	9	5.7%
		レジ袋	2	250	3	150.0%	246	98.4%
		その他プラスチック袋	2	2	3	150.0%	414	20700.0%
	ライター	ライター	1	29	1	100.0%	29	100.0%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	2	10	13	650.0%	62	620.0%
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	2	36	2	100.0%	325	902.8%
	その他の漁具(漁具)	釣り糸	1	2	3	300.0%	22	1100.0%
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	0	0	15		6	
生活雑貨(歯ブラシ等)		1	270	6	600.0%	235	87.0%	
苗木ポット		0	0	1		3		
その他		12	19	5	41.7%	8	42.1%	
発泡スチロール	発泡スチロール製フロート、浮子(ブイ)	発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)	1	289	0	0.0%	0	0.0%
	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	6	27	32	533.3%	116	429.6%
	発泡スチロール製包装材	発泡スチロール製包装材	1	4	0	0.0%	0	0.0%
	その他	その他	1	125	0	0.0%	0	0.0%
ゴム	ゴム	その他	0	0	1		162	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	0	0	2		271	
		ガラス、陶器の破片	2	77	4	200.0%	25	32.5%
		ビンのふた、キャップ、プルタブ	0	0	2		4	
金属	金属	アルミの飲料缶	3	38	3	100.0%	51	134.2%
		スチール製飲料用缶	1	29	3	300.0%	105	362.1%
		その他	0	0	2		55	
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器	2	18	1	50.0%	10	55.6%
		タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	1	12	1	100.0%	11	91.7%
		花火	0	0	1		1	
		紙製容器(飲料用紙パック等)	2	25	2	100.0%	74	296.0%
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	6	271	18	300.0%	83	30.6%
		その他	2	72	0	0.0%	0	0.0%
天然繊維、革	天然繊維、革	その他	0	0	2		97	
木(木材等)	木(木材等)	木材(物流用パレット、木炭等含む)	0	0	4		407	
自然物	自然物	灌木(植物片を含む、径10cm未満、長さ1m未満)	4	1,360	17	425.0%	1,388	102.1%
		その他	5	192	0	0.0%	0	0.0%
合計			89	3,671	176	197.8%	4,604	125.4%

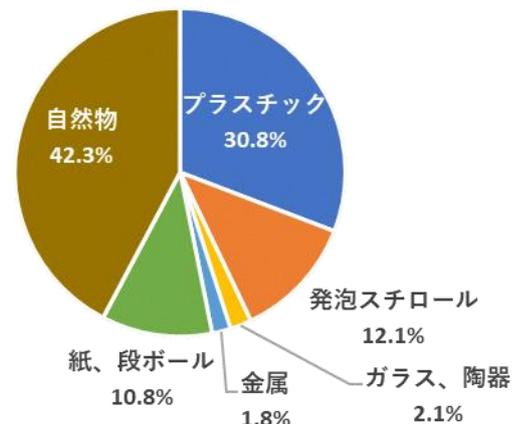
○大分類集計表（1回目）

地点10	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	52	9	0	2	4	13	0	0	0	9
重量(g)	1,132	445	0	77	67	398	0	0	0	1,552

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（89個）の種類別内訳



回収したごみ（3,671g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が61個（68.5%）、次いで「紙、ダンボール」13個（14.6%）、「自然物」9個（10.1%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「飲料用ペットボトル<1L」で10個（11.2%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」1,577g（42.9%）が最も多く、次いで、「自然物」が1,552g（42.3%）、「紙、ダンボール」398g（10.8%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「発泡スチロール製フロート・浮子（ブイ）」が289g（7.9%）で最も割合が高かった。

「プラスチック系のごみ」には、「ペットボトル」や「食品容器」といった生活系ごみが多く見られるとともに、養殖用のフロートや保冷ボックスの破片など、漁業に関係すると考えられる発泡スチロール製のごみも回収された。発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数197.8%、重量125.4%といずれも増加しており、海岸に漂着するごみが恒常的に発生していると考えられる。

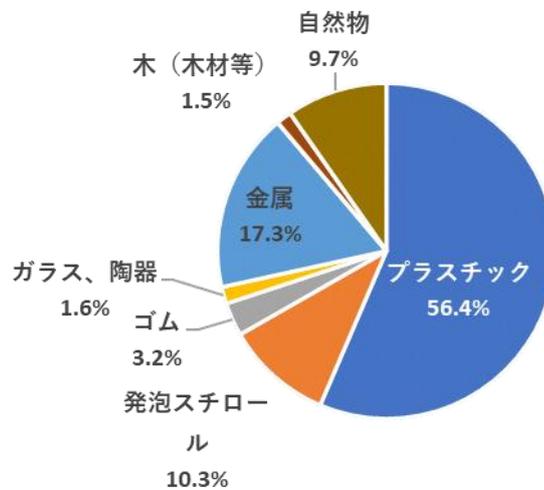
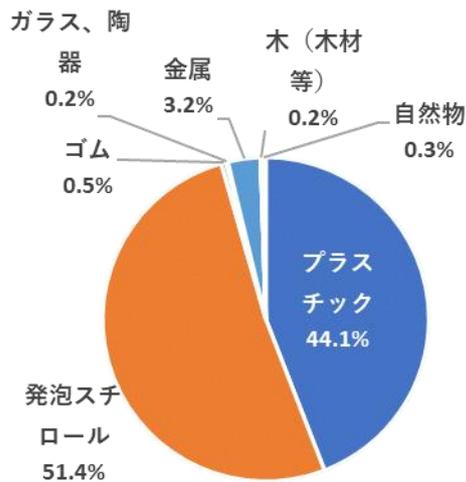
【調査地点 1 1】 笠岡市

大分類	中分類	小分類	1回目(9/13)		2回目(10/3)			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	60	145	8	13.3%	24	16.6%
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	60	1,580	3	5.0%	74	4.7%
		その他のプラボトル<1L	1	16	0	0.0%	0	0.0%
		飲料用(ペットボトル)≥1L	13	520	2	15.4%	78	15.0%
		ストロー	ストロー	2	3	2	100.0%	3
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	5	111	1	20.0%	17	15.3%
		食品容器	6	19	2	33.3%	9	47.4%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	7	4	7	100.0%	8	200.0%
		その他プラスチック袋	2	8	0	0.0%	0	0.0%
	ライター	ライター	2	20	1	50.0%	11	55.0%
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	4	2	4	100.0%	4	200.0%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	68	117	39	57.4%	17	14.5%
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	4	13	18	450.0%	52	400.0%
	ウレタン	ウレタン	6	24	0	0.0%	0	0.0%
	浮子(ブイ)(漁具)	浮子(ブイ)(漁具)	1	44	0	0.0%	0	0.0%
	ロープ、ひも(漁具)	ロープ、ひも(漁具)	2	7	2	100.0%	25	357.1%
	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)	4	4	0	0.0%	0	0.0%
	カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)(漁具)	カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)(漁具)	1	10	0	0.0%	0	0.0%
	その他の漁具(漁具)	釣りのルアー・浮き	0	0	1		3	
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	0	0	2		1	
生活雑貨(歯ブラシ等)		7	57	0	0.0%	0	0.0%	
苗木ポット		4	18	1	25.0%	4	22.2%	
その他		1	21	1	100.0%	485	2309.5%	
発泡スチロール	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	303	500	464	153.1%	66	13.2%
ゴム	ゴム	玩具、ボール	2	150	0	0.0%	0	0.0%
		ゴムの破片	0	0	2		82	
		その他	1	6	0	0.0%	0	0.0%
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	1	79	0	0.0%	0	0.0%
金属	金属	アルミの飲料缶	13	500	0	0.0%	0	0.0%
		その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)	3	330	0	0.0%	0	0.0%
		その他	3	13	2	66.7%	4	30.8%
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製容器(飲料用紙パック等)	0	0	1		47	
木(木材等)	木(木材等)	木材(物流用パレット、木炭等含む)	1	71	0	0.0%	0	0.0%
自然物	自然物	その他	2	470	0	0.0%	0	0.0%
合計			589	4,862	563	95.6%	1,014	20.9%

○大分類集計表（1回目）

地点11	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	260	303	3	1	19	0	0	1	0	2
重量(g)	2,743	500	156	79	843	0	0	71	0	470

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が563個（95.5%）、次いで「金属」19個（3.2%）、「ゴム」3個（0.5%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「発泡スチロールの破片」で303個（51.4%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」3,243g（66.7%）が最も重く、次いで、「金属」843g（17.3%）、「自然物」470g（9.7%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「飲料用ペットボトル<1L」が1,580g（32.5%）で最も割合が高かった。

発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数が95.6%であったのに対し、重量は20.9%と大きく減少した。これは比較的重量の重い「金属」「自然物」「ペットボトル」などが減少したためである。また、個数では「発泡スチロールの破片」が増加する結果となった。

イ. 調査地点の分類ごと

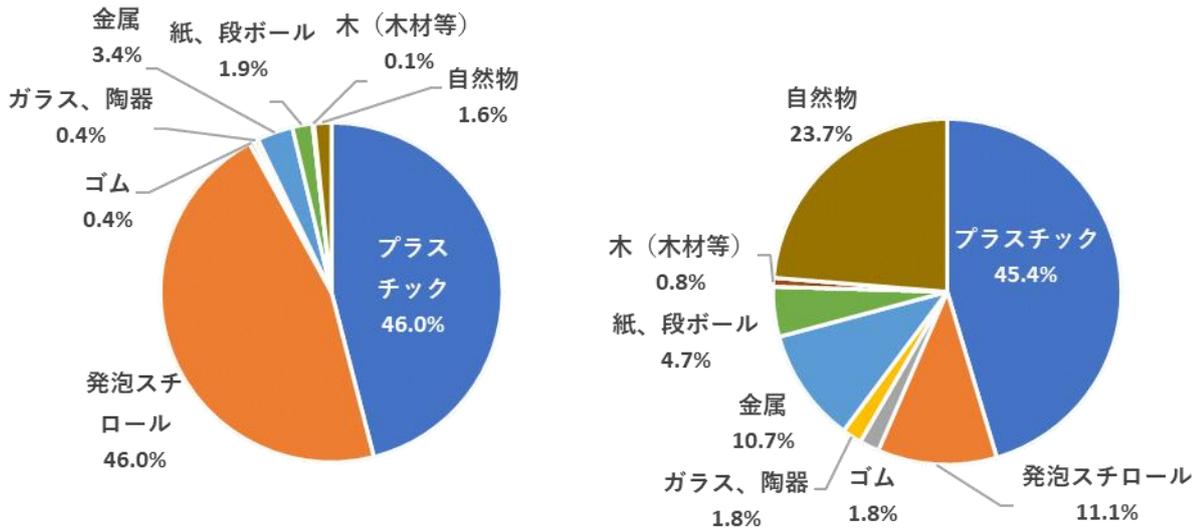
【分類1】 海岸部 (調査地点10、11)

大分類	中分類	小分類	1回目		2回目				
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)	
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	69	167	18	26.1%	48	28.7%	
		ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	70	1,850	14	20.0%	333	18.0%
			その他のプラボトル<1L	1	16	0	0.0%	0	0.0%
			飲料用(ペットボトル)≥1L	13	520	3	23.1%	112	21.5%
	ストロー	ストロー	3	4	3	100.0%	4	100.0%	
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	6	140	2	33.3%	57	40.7%	
		食品容器	10	54	4	40.0%	36	66.7%	
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	11	161	10	90.9%	17	10.6%	
		レジ袋	2	250	3	150.0%	246	98.4%	
		その他プラスチック袋	4	10	3	75.0%	414	4140.0%	
	ライター	ライター	3	49	2	66.7%	40	81.6%	
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	4	2	4	100.0%	4	200.0%	
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	70	127	52	74.3%	79	62.2%	
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	6	49	20	333.3%	377	769.4%	
	ウレタン	ウレタン	6	24	0	0.0%	0	0.0%	
	浮子(ブイ)(漁具)	浮子(ブイ)(漁具)	1	44	0	0.0%	0	0.0%	
	ロープ、ひも(漁具)	ロープ、ひも(漁具)	2	7	2	100.0%	25	357.1%	
	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)	4	4	0	0.0%	0	0.0%	
	カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)(漁具)	カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)(漁具)	1	10	0	0.0%	0	0.0%	
	その他の漁具(漁具)	釣りのルアー・浮き	0	0	1		3		
		釣り糸	1	2	3	300.0%	22	1100.0%	
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	0	0	17		7		
		生活雑貨(歯ブラシ等)	8	327	6	75.0%	235	71.9%	
苗木ポット		4	18	2	50.0%	7	38.9%		
その他		13	40	6	46.2%	493	1232.5%		
発泡スチロール	発泡スチロール製フロート、浮子(ブイ)	発泡スチロール製フロート・浮子(ブイ)	1	289	0	0.0%	0	0.0%	
		発泡スチロールの破片	309	527	496	160.5%	182	34.5%	
		発泡スチロール製包装材	1	4	0	0.0%	0	0.0%	
		その他	1	125	0	0.0%	0	0.0%	
ゴム	ゴム	玩具、ボール	2	150	0	0.0%	0	0.0%	
		ゴムの破片	0	0	2		82		
		その他	1	6	1	100.0%	162	2700.0%	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	1	79	2	200.0%	271	343.0%	
		ガラス、陶器の破片	2	77	4	200.0%	25	32.5%	
金属	金属	ビンのふた、キャップ、ブルタブ	0	0	2		4		
		アルミの飲料缶	16	538	3	18.8%	51	9.5%	
		スチール製飲料用缶	1	29	3	300.0%	105	362.1%	
		その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)	3	330	0	0.0%	0	0.0%	
		その他	3	13	4	133.3%	59	453.8%	
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器	2	18	1	50.0%	10	55.6%	
		タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	1	12	1	100.0%	11	91.7%	
		花火	0	0	1		1		
		紙製容器(飲料用紙パック等)	2	25	3	150.0%	121	484.0%	
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	6	271	18	300.0%	83	30.6%	
その他	2	72	0	0.0%	0	0.0%			
天然繊維、革	天然繊維、革	その他	0	0	2		97		
木(木材等)	木(木材等)	木材(物流用パレット、木炭等含む)	1	71	4	400.0%	407	573.2%	
自然物	自然物	灌木(植物片を含む、径10cm未満、長さ1m未満)	4	1,360	17	425.0%	1,388	102.1%	
		その他	7	662	0	0.0%	0	0.0%	
合計			678	8,533	739	109.0%	5,618	65.8%	

○大分類集計表（1回目）

海岸部	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	312	312	3	3	23	13	0	1	0	11
重量(g)	3,875	945	156	156	910	398	0	71	0	2,022

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（678個）の種類別内訳

回収したごみ（8,533g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が624個（92.0%）、次いで「金属」13個（3.4%）、「紙、ダンボール」13個（0.5%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「発泡スチロールの破片」で309個（45.6%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」4,820g（56.5%）が最も重く、次いで、「自然物」2,022g（23.7%）、「金属」910g（10.7%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「飲料用ペットボトル<1L」が1,850g（21.7%）で最も割合が高かった。

発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数109.0%、重量65.8%であった。

海岸部の特徴として、「プラスチック系のごみ」の個数に占める「発泡スチロール」の割合が高い点が挙げられる。そのほとんどは、「発泡スチロールの破片」で、漁業用のフロートや保冷ボックスの破片など、漁業に関係すると考えられるごみが多かった。それ以外の「プラスチック系のごみ」では、「ボトル」が84個（12.4%）、「シートや袋の破片」が70個（10.3%）と大きな割合を占めており、内陸部の河川と同様の傾向が見られた。これは、海に注ぎ込む河川から流出したものが、海岸に漂着したと推察される。

また、他の分類と比較して、個数・重量ともに2回目の割合が高い点が挙げられる。これは、恒常的にごみが漂着している状況を証明する結果と言える。

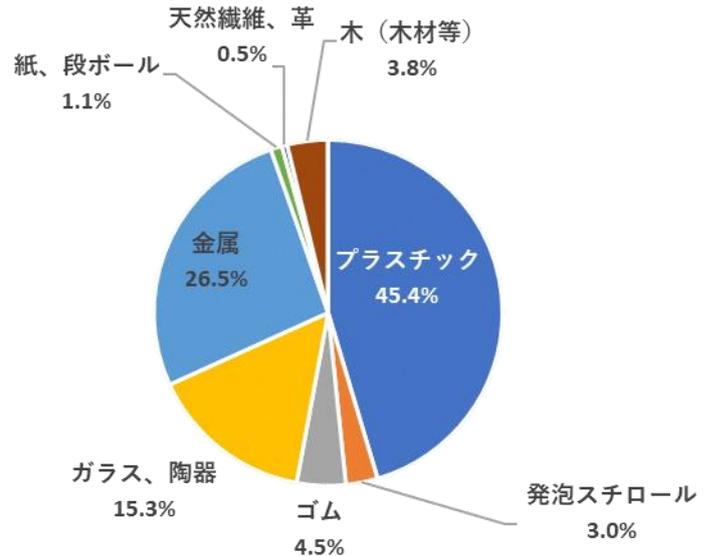
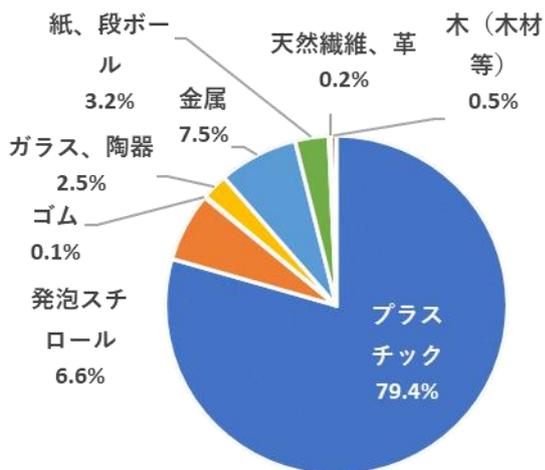
【分類2】農地周辺の水路（調査地点8、9）

大分類	中分類	小分類	1回目		2回目			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	3	7	46	1533.3%	125	1785.7%
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	96	721	50	52.1%	1,962	272.1%
		飲料用(ペットボトル)≥1L	83	2,349	5	6.0%	600	25.5%
	ストロー	ストロー	1	1	2	200.0%	2	200.0%
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	9	111	3	33.3%	54	48.6%
		食品容器	35	269	14	40.0%	140	52.0%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	17	81	20	117.6%	114	140.7%
		レジ袋	4	80	7	175.0%	157	196.3%
		その他プラスチック袋	10	621	3	30.0%	71	11.4%
	ライター	ライター	2	32	1	50.0%	14	43.8%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	272	3,315	39	14.3%	95	2.9%
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	15	342	72	480.0%	357	104.4%
	ウレタン	ウレタン	1	9	4	400.0%	57	633.3%
	その他の漁具(漁具)	その他の漁具	3	171	0	0.0%	0	0.0%
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	104	46	17	16.3%	14	30.4%
生活雑貨(歯ブラシ等)		8	53	16	200.0%	512	966.0%	
苗木ポット		0	0	1		6		
その他		13	41	3	23.1%	29	70.7%	
発泡スチロール	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	56	536	78	139.3%	260	48.5%
ゴム	ゴム	玩具、ボール	0	0	7		500	
		靴(サンダル、靴底含む)	1	823	0	0.0%	0	0.0%
		その他	0	0	2		61	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	0	0	7		1,106	
		ガラス、陶器の破片	20	2,765	22	110.0%	823	29.8%
		食品以外容器	0	0	2		143	
		電球	1	10	0	0.0%	0	0.0%
金属	金属	ビンのふた、キャップ、プルタ	12	56	7	58.3%	10	17.9%
		アルミの飲料缶	41	1,515	44	107.3%	2,668	176.1%
		スチール製飲料用缶	3	132	5	166.7%	268	203.0%
		その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)	2	195	4	200.0%	811	415.9%
		金属片	2	4	0	0.0%	0	0.0%
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	0	0	12		11	
		その他	4	2,907	4	100.0%	101	3.5%
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器	2	24	0	0.0%	0	0.0%
		タバコのパッケージ(フィルム、)	9	82	1	11.1%	9	11.0%
		紙製容器(飲料用紙パック等)	2	37	0	0.0%	0	0.0%
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	14	51	13	92.9%	77	151.0%
天然繊維、革	天然繊維、革	その他	2	89	0	0.0%	0	0.0%
木(木材等)	木(木材等)	木材(物流用パレット、木炭等含む)	4	687	5	125.0%	489	71.2%
合計			851	18,162	516	60.6%	11,646	64.1%

○大分類集計表（1回目）

農地周辺の水路	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	676	56	1	21	64	27	2	4	0	0
重量(g)	8,249	536	823	2,775	4,809	194	89	687	0	0

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（851個）の種類別内訳

回収したごみ（18,162g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が732個（86.0%）、次いで「金属」64個（7.5%）、「紙、ダンボール」27個（3.2%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「シートや袋の破片」で272個（32.0%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」8,785g（48.4%）が最も重く、次いで、「金属」4,809g（26.5%）、「ガラス、陶器」2,775g（15.3%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳でも、「シートや袋の破片」が3,315g（18.3%）で最も割合が高かった。

発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数60.6%、重量64.1%であった。

農地周辺の水路の特徴として、「シートや袋の破片」や「その他プラスチック袋」に、農業用のシートや肥料袋などが見られた点、「硬質プラスチックの破片」として畔板の破片が多く確認された点が挙げられる。また、「飲料用ペットボトル<1L、≥1L」や「アルミの飲料缶」などの生活系ごみも多く確認された。さらに、個数・重量の2回目の割合が、海岸部に次いで高い点も確認された。これらの地点では、水面に滞留しているごみも回収しており、そこで回収されたごみの多くは、上流より新たに運ばれてきたものが滞留していると考えられ、恒常的にごみが発生している状況が確認された。

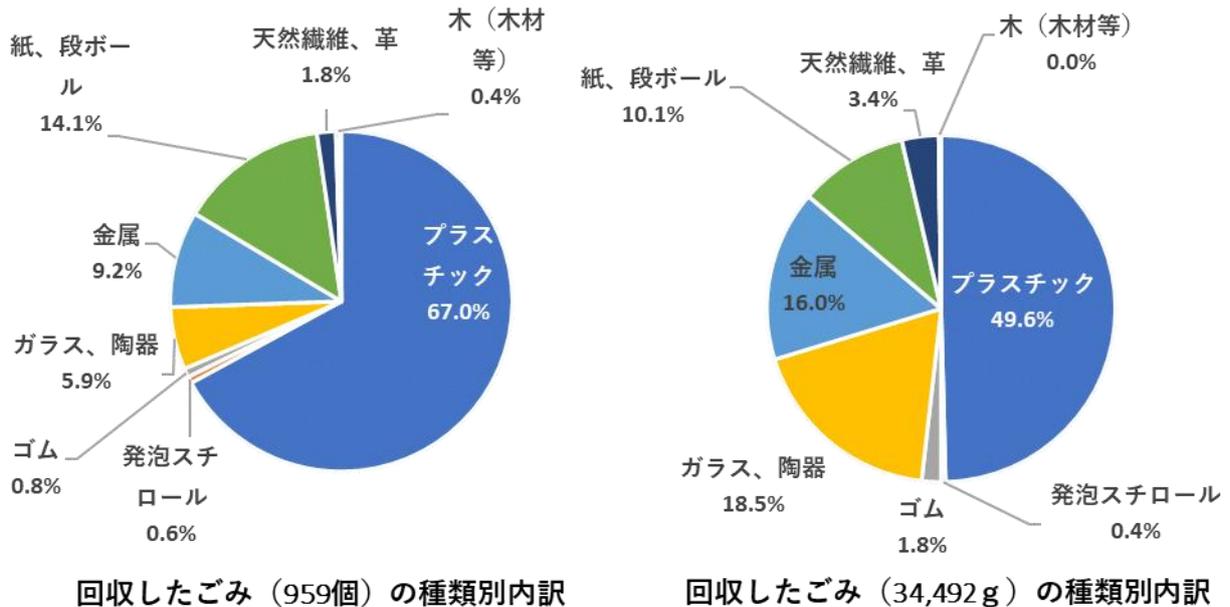
【分類3】市街地の水路（調査地点1、6）

大分類	中分類	小分類	1回目		2回目				
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)	
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	67	166	29	43.3%	86	51.8%	
		ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	70	1,730	22	31.4%	586	33.9%
			その他のプラボトル<1L	12	500	6	50.0%	147	29.4%
			飲料用(ペットボトル)≥1L	3	160	3	100.0%	140	87.5%
	ストロー	ストロー	11	16	1	9.1%	1	6.3%	
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	9	50	1	11.1%	20	40.0%	
		食品容器	42	515	18	42.9%	217	42.1%	
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	72	631	38	52.8%	428	67.8%	
		レジ袋	82	2,436	43	52.4%	2,970	121.9%	
		その他プラスチック袋	112	2,892	15	13.4%	341	11.8%	
	ライター	ライター	4	63	0	0.0%	0	0.0%	
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	6	86	0	0.0%	0	0.0%	
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	56	5,780	26	46.4%	262	4.5%	
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	30	1,029	7	23.3%	658	63.9%	
	ウレタン	ウレタン	1	44	1	100.0%	149	338.6%	
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	15	21	26	173.3%	36	171.4%	
		生活雑貨(歯ブラシ等)	31	338	8	25.8%	486	143.8%	
玩具		2	20	0	0.0%	0	0.0%		
プラスチック梱包材		0	0	1		40			
苗木ポット		0	0	1		8			
その他		18	630	9	50.0%	296	47.0%		
発泡スチロール	コップ、食品容器	食品容器(発泡スチロール)	0	0	2		18		
	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	6	140	9	150.0%	18	12.9%	
ゴム	ゴム	玩具、ボール	3	194	1	33.3%	4	2.1%	
		靴(サンダル、靴底含む)	1	320	5	500.0%	953	297.8%	
		ゴムの破片	1	47	0	0.0%	0	0.0%	
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	2	43	0	0.0%	0	0.0%	
		その他	1	15	0	0.0%	0	0.0%	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	41	4,580	21	51.2%	2,747	60.0%	
		ガラス、陶器の破片	14	1,368	0	0.0%	0	0.0%	
		食品以外容器	0	0	1		100		
		蛍光管	0	0	1		250		
		その他	2	419	0	0.0%	0	0.0%	
金属	金属	ピンのふた、キャップ、プルタ	38	64	21	55.3%	42	65.6%	
		アルミの飲料缶	23	980	9	39.1%	232	23.7%	
		スチール製飲料用缶	3	280	4	133.3%	308	110.0%	
		ワイヤー、針金	3	35	1	33.3%	7	20.0%	
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	21	4,149	0	0.0%	0	0.0%	
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器	2	20	5	250.0%	61	305.0%	
		タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	18	216	2	11.1%	35	16.2%	
		紙袋	4	122	0	0.0%	0	0.0%	
		食品包装材	0	0	1		4		
		紙製容器(飲料用紙パック等)	9	211	4	44.4%	204	96.7%	
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	102	2,927	40	39.2%	1,948	66.6%	
		その他	0	0	2		120		
天然繊維、革	天然繊維、革	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	2	200	11	550.0%	1,860	930.0%	
		その他	15	979	0	0.0%	0	0.0%	
木(木材等)	木(木材等)	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	0	0	4		8		
		その他	4	16	13	325.0%	2,759	17243.8%	
自然物	自然物	その他	1	60	2	200.0%	27	45.0%	
合計			959	34,492	414	43.2%	18,576	53.9%	

○大分類集計表（1回目）

市街地の水路	プラスチック	発泡スチロール	ゴム	ガラス、陶器	金属	紙、ダンボール	天然繊維、革	木(木材等)	電化製品、電子機器	自然物
個数(個)	643	6	8	57	88	135	17	4	0	1
重量(g)	17,107	140	619	6,367	5,508	3,496	1,179	16	0	60

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が649個（67.6%）、次いで「紙、ダンボール」135個（14.1%）、「金属」88個（9.2%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「その他のプラスチック袋」112個（11.7%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」17,247g（50.0%）が最も重く、次いで、「ガラス、陶器」6,367g（18.5%）、「金属」5,508g（16.0%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳では、「シートや袋の破片」が5,780g（16.8%）で最も割合が高かった。

発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数43.2%、重量53.9%であった。

市街地の水路の特徴として、「レジ袋」をはじめとした「ポリ袋（不透明、透明）」や、「飲料用ペットボトル<1L、≥1L」などの「ボトル」、「食品容器（ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの）」といった生活系ごみが多くを占めている点が挙げられる。また、「紙、ダンボール」も多かった。さらに、2回目調査の個数・重量の割合がともに50%前後と高い点が挙げられ、農地周辺の水路と同様、新たなごみの発生が恒常的にあることが推察される。

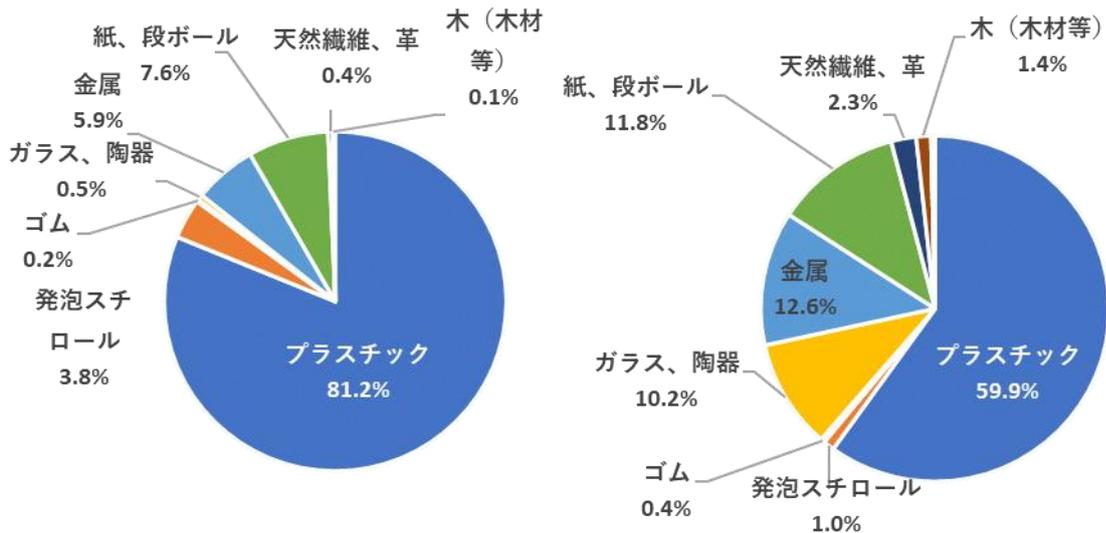
【分類4】道路脇の河川敷（調査地点3、4、7）

大分類	中分類	小分類	1回目		2回目				
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)	
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	130	322	8	6.2%	18	5.6%	
		ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	144	5,370	7	4.9%	135	2.5%
			その他のプラボトル<1L	1	73	0	0.0%	0	0.0%
			飲料用(ペットボトル)≧1L	3	140	0	0.0%	0	0.0%
	ストロー	ストロー	10	9	8	80.0%	8	88.9%	
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	1	3	0	0.0%	0	0.0%	
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	12	180	1	8.3%	18	10.0%	
		食品容器	44	847	1	2.3%	19	2.2%	
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	66	375	34	51.5%	83	22.1%	
		レジ袋	98	389	4	4.1%	30	7.7%	
		その他プラスチック袋	80	711	6	7.5%	5	0.7%	
	ライター	ライター	1	13	1	100.0%	44	338.5%	
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	3	9	3	100.0%	7	77.8%	
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	370	1,190	199	53.8%	157	13.2%	
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	26	304	52	200.0%	117	38.5%	
	ウレタン	ウレタン	0	0	2		20		
	その他の漁具(漁具)	釣り糸	1	8	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	97	25	177	182.5%	71	284.0%	
		生活雑貨(歯ブラシ等)	7	377	2	28.6%	21	5.6%	
		苗木ポット	4	43	0	0.0%	0	0.0%	
分類に無いもので多数見つかった場合には記載		0	0	3		2			
その他		8	49	7	87.5%	77	157.1%		
発泡スチロール	コップ、食品容器	食品容器(発泡スチロール)	20	142	0	0.0%	0	0.0%	
	発泡スチロール製フロート、浮子(フイ)	発泡スチロール製フロート・浮子(フイ)	0	0	8		5		
	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	32	38	46	143.8%	11	28.9%	
ゴム	ゴム	玩具、ボール	1	33	0	0.0%	0	0.0%	
		ゴムの破片	1	3	2	200.0%	42	1400.0%	
		その他	1	31	0	0.0%	0	0.0%	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	0	0	2		242		
		ガラス、陶器の破片	0	0	3		20		
		食品以外容器	5	1,300	0	0.0%	0	0.0%	
		その他	2	484	0	0.0%	0	0.0%	
金属	金属	ビン(ふた、キャップ、プルタ)	12	161	5	41.7%	8	5.0%	
		アルミの飲料缶	32	796	3	9.4%	80	10.1%	
		スチール製飲料用缶	30	927	5	16.7%	162	17.5%	
		その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等)	2	147	0	0.0%	0	0.0%	
		金属製漁具	0	0	1		16		
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	2	3	1	50.0%	6	200.0%	
		その他	3	152	4	133.3%	27	17.8%	
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器	4	49	0	0.0%	0	0.0%	
		タバコのパッケージ(フィルム)	13	71	7	53.8%	81	114.1%	
		紙袋	1	13	0	0.0%	0	0.0%	
		食品包装材	5	71	1	20.0%	15	21.1%	
		紙製容器(飲料用紙パック等)	15	745	1	6.7%	13	1.7%	
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	62	841	55	88.7%	251	29.8%	
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	3	21	0	0.0%	0	0.0%	
		その他	1	243	0	0.0%	0	0.0%	
天然繊維、革	天然繊維、革	ロープ、ひも	1	3	0	0.0%	0	0.0%	
		その他	5	400	3	60.0%	12	3.0%	
木(木材等)	木(木材等)	その他	1	240	0	0.0%	0	0.0%	
電化製品、電子機器	電化製品、電子機器	電化製品、電子機器	1	0	0	0.0%	0		
		その他	0	0	1		13		
自然物	自然物	灌木(植物片を含む、径10cm未満、長さ1m未満)	0	0	1		181		
		その他	1	63	0	0.0%	0	0.0%	
合計			1,362	17,414	664	48.8%	2,017	11.6%	

○大分類集計表（1回目）

道路脇の 河川敷	プラスチ ック	発泡スチ ロール	ゴム	ガラス、 陶器	金属	紙、ダン ボール	天然織 維、革	木(木材 等)	電化製 品、電子 機器	自然物
個数(個)	1,106	52	3	7	81	104	6	1	1	1
重量(g)	10,437	180	67	1,784	2,186	2,054	403	240	0	63

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（1,362個）の種類別内訳

回収したごみ（17,414g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が1,158個（85.0%）、次いで「紙、ダンボール」104個（7.6%）、「金属」81個（5.9%）の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「シートや袋の破片」で370個（27.2%）であった。

種類別の重量でも、「プラスチック系のごみ」10,617g（60.9%）が最も重く、次いで、「金属」2,186g（12.6%）、「紙、ダンボール」2,054g（10.2%）の順であった。プラスチック系のごみの内訳では、「飲料用ペットボトル<1L」が5,370g（30.8%）で最も割合が高かった。

発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数48.8%、重量11.6%であった。

道路脇の河川敷の特徴として、生活系ごみが多い点と、発生量調査で「ボトル」や「ポリ袋（不透明、透明）」「食品容器（ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの）」の減少幅が大きかった点が挙げられる。これは、道路脇の河川敷では、上流から流れ着いたごみより、道路からポイ捨てされたごみが多いためと考えられる。また、「たばこ吸殻（フィルター）」の数は約2倍に増えており、1回目に回収出来なかったものがあったと仮定しても、恒常的にポイ捨てされている状況があると推察される。

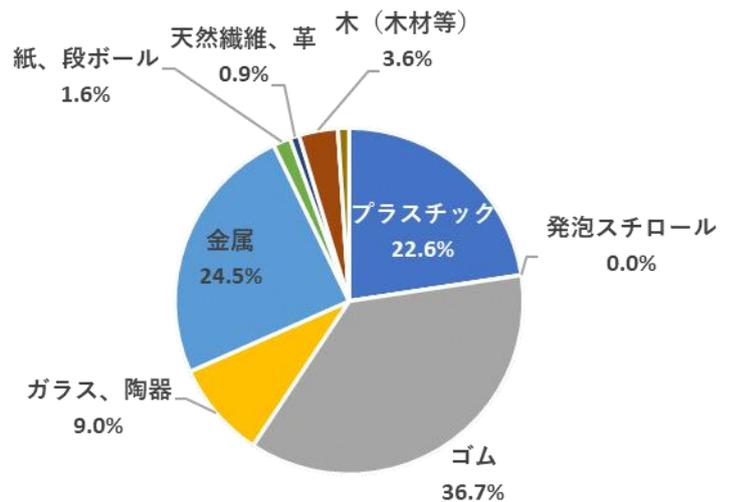
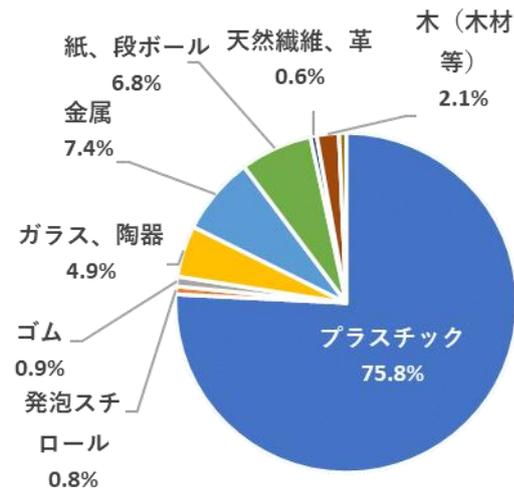
【分類5】 広い河川敷（調査地点2、5）

大分類	中分類	小分類	1回目		2回目			
			個数(個)	重量(g)	個数	増減率(%)	重量(g)	増減率(%)
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	17	4	3	17.6%	7	175.0%
	ボトル	飲料用(ペットボトル)<1L	1	0	4	400.0%	93	
		飲料用(ペットボトル)≧1L	20	960	0	0.0%	0	0.0%
	ストロー	ストロー	12	1	0	0.0%	0	0.0%
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	カップ、食器	26	500	2	7.7%	22	4.4%
		食品容器	17	308	1	5.9%	11	3.6%
	ポリ袋(不透明、透明)	食品の容器包装	87	229	19	21.8%	28	12.2%
		レジ袋	23	404	2	8.7%	17	4.2%
		その他プラスチック袋	116	1,267	4	3.4%	45	3.6%
	ライター	ライター	3	88	0	0.0%	0	0.0%
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	5	8	6	120.0%	9	112.5%
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	128	328	42	32.8%	64	19.5%
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	262	5,710	32	12.2%	283	5.0%
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	163	310	128	78.5%	37	11.9%
		生活雑貨(歯ブラシ等)	3	120	0	0.0%	0	0.0%
玩具		1	2	0	0.0%	0	0.0%	
苗木ポット		2	80	0	0.0%	0	0.0%	
その他		13	194	0	0.0%	0	0.0%	
発泡スチロール	コップ、食品容器	食品容器(発泡スチロール)	5	2	3	60.0%	77	3850.0%
	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	4	7	0	0.0%	0	0.0%
ゴム	ゴム	タイヤ	1	15,000	0	0.0%	0	0.0%
		玩具、ボール	1	46	1	100.0%	135	293.5%
		靴(サンダル、靴底含む)	1	40	0	0.0%	0	0.0%
		ゴムの破片	3	112	1	33.3%	21	18.8%
		その他	5	1,880	0	0.0%	0	0.0%
ガラス、陶器	ガラス、陶器	食品容器	6	2,640	4	66.7%	381	14.4%
		ガラス、陶器の破片	50	1,551	10	20.0%	156	10.1%
		その他	2	11	0	0.0%	0	0.0%
金属	金属	ビンのふた、キャップ、プルタブ	9	505	2	22.2%	1	0.2%
		アルミの飲料缶	20	1,120	3	15.0%	108	9.6%
		スチール製飲料用缶	6	760	0	0.0%	0	0.0%
		金属片	39	1,790	3	7.7%	143	8.0%
		ワイヤー、針金	3	106	0	0.0%	0	0.0%
		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	0	0	1		2,655	
		その他	11	7,140	1	9.1%	2	0.0%
紙、ダンボール	紙、ダンボール	タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)	12	97	7	58.3%	55	56.7%
		花火	1	1	2	200.0%	4	400.0%
		食品包装材	23	280	0	0.0%	0	0.0%
		紙製容器(飲料用紙パック等)	1	7	0	0.0%	0	0.0%
		紙片(段ボール、新聞紙等を含む)	44	367	18	40.9%	12	3.3%
天然繊維、革	天然繊維、革	ロープ、ひも	5	8	0	0.0%	0	0.0%
		その他	2	396	0	0.0%	0	0.0%
木(木材等)	木(木材等)	木材(物流用パレット、木炭等含む)	10	91	1	10.0%	732	804.4%
		その他	15	1,592	2	13.3%	99	6.2%
自然物	自然物	その他	8	480	0	0.0%	0	0.0%
合計			1,186	46,542	302	25.5%	5,197	11.2%

○大分類集計表（1回目）

広い 河川敷	プラスチ ック	発泡スチ ロール	ゴム	ガラス、 陶器	金属	紙、ダン ボール	天然織 維、革	木(木材 等)	電化製 品、電子 機器	自然物
個数(個)	899	9	11	58	88	81	7	25	0	8
重量(g)	10,513	9	17,078	4,202	11,421	752	404	1,683	0	480

○大分類個数、重量割合グラフ（1回目）



回収したごみ（1,186個）の種類別内訳

回収したごみ（46,542g）の種類別内訳

種類別の個数では、「プラスチック系のごみ」が908個（76.6%）、次いで「金属」88個（7.4%）、「紙、ダンボール」81個（6.8%）、の順であった。「プラスチック系のごみ」の内訳で最も多かったのは「硬質プラスチックの破片」で262個（22.1%）であった。

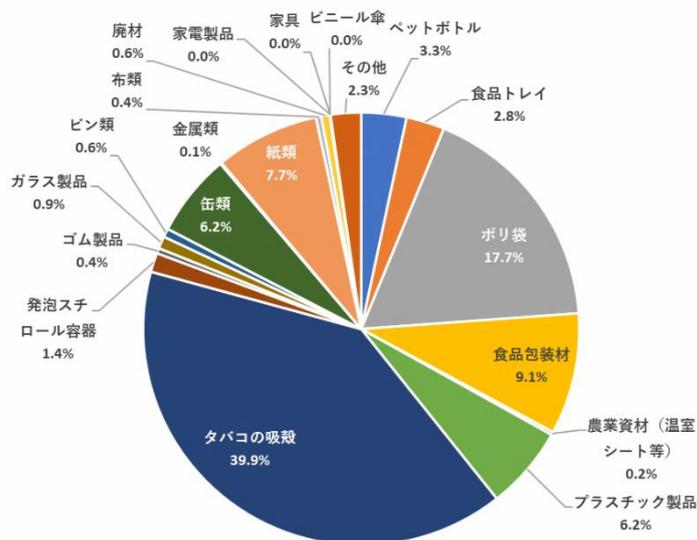
種類別の重量では、「ゴム」17,078g（36.7%）が最も重く、次いで、「金属」が11,421g（24.5%）、「プラスチック系のごみ」10,522g（22.6%）の順であった。「ゴム」の割合が高かったのは、不法投棄された自動車用のタイヤが回収されたためである。「金属」は、バーベキュー用のコンロや金属の塊などが回収された。

発生量調査では、1回目に対する2回目の割合は、個数25.5%、重量11.2%であった。

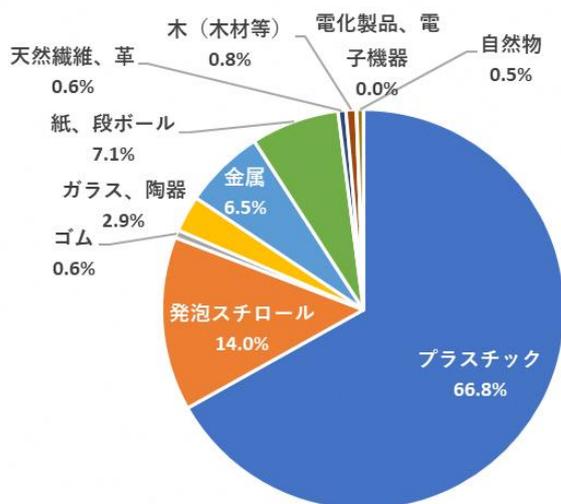
広い河川敷の特徴として、「硬質プラスチックの破片」や「シートや袋の破片」など、河川敷の雑木や雑草に引っかかって劣化したごみが多い点が挙げられる。散策道や橋のたもとなどでは、ポイ捨てされたと思われるごみもあったが、交通量の多い道路から離れていることもあり、発生量調査の2回目の割合は、全ての分類の中で最も低かった。

(4) その他の調査との分析

参考に、平成22年度に岡山県備中県民局が実施した「高梁川流域における海ごみ対策基礎調査」事業の結果との比較を行う。ただし、本調査とは手法や対象の範囲が異なることを申し添えておく。



回収したごみ (24,705個) の種類別内わけ
高梁川流域における海ごみ対策基礎調査の結果



回収したごみ (7,671個) の種類別内わけ
本調査の結果

個数では、海ごみ対策基礎調査で最も多い80.5%を占めた「発泡スチロール」を合わせた「プラスチック系のごみ」は、本調査でも80.8%と最も多くなっており、次いで多かった「紙類」「缶類」「金属」についても、本調査では「紙、ダンボール」「金属」の順になっており、回収されたごみの傾向は同じことが確認できる。

また、「プラスチック系のごみ」の内訳では、海ごみ対策基礎調査では、「たばこ吸殻 (フィルター) (39.9%)」「ポリ袋 (17.7%)」「食品包装材 (9.1%)」の順であったが、本事業では、「シートや袋の破片 (16.3%)」「発泡スチロール (14.0%)」「ポリ袋 (13.0%)」の順であった。

4. 高梁川流域圏における海ごみの発生状況及び減量化策の考察

(1) 高梁川流域圏における海ごみの発生状況

以上に示した各地点の調査結果を基に、高梁川流域圏における海ごみの発生状況を推察すると以下とおりであり、これらを総合すると、高梁川流域圏周辺の家ごみは、高梁川流域に住む人々の生活と密接に結びつき、日々の営みの中で継続して発生していることが確認できた。

① どの地点もプラスチック系のごみが多い

全ての調査地点の集計結果で共通しているのは、全てにおいてプラスチック系のごみの割合が非常に高い点である。

② 劣化スピードが早い「ごみ」は、発生源近くで破損している

内陸部で共通している点として、シートや袋の破片の個数が多くなっていることが挙げられる。これは、一言にプラスチックと言っても、その種類により様々な特徴があり、その特徴を活かして使用されているが、一般的にシートや袋は耐候性が低いものが多く、劣化のスピードの早さから、捨てられた地点の近くで日光や風雨により破砕されていると推察される。しかし、プラスチックは小さくなったからと言って自然界で分解されやすくなるわけではないため、形を変えて自然界に残っていくことになる。これらが5mm以下の大きさになったものが、いわゆるマイクロプラスチックであり、更なる問題を引き起こしている。

また、海岸部で回収したプラスチック系のごみの中では、飲料用のペットボトルが多いことが確認された。ペットボトルの素材は、耐熱性や耐寒性、強度が優れており、元の形状を保ったまま内陸部から海に流出し、海岸に漂着したと考えられる。

③ 海岸部では発泡スチロールの割合が高い

海岸部の調査では、内陸部の調査と比較して、発泡スチロールの割合が高い点を確認できた。具体的には、発泡スチロール製のフロートや浮子（ブイ）、保冷ボックスなどが破砕され流れ着いたものがほとんどであった。発泡スチロール製のごみは、内陸部で回収した量がわずかであったことを踏まえると、海上や沿岸で発生した可能性が高いと推察される。

④ 高梁川流域から流出した「ごみ」は近くの沿岸や離島へ流れ着く

今回調査した海岸部2地点のごみの内、生活から出されたごみと推察されたもののほぼ全ては、日本語表記されたごみであった。食品包装の袋に記載された消費期限が調査日と近い日付のものもあり、すぐ近くで生活する高梁川流域の人々の生活の中から発生したものが流れ着いている可能性が高いことが確認できた。

⑤ 海ごみの要因となる内陸部の「ごみ」は継続して発生している

1回目調査（実態把握）の回収量と2回目調査（発生量）の回収量を比較したところ、地点によっては2回目の回収量が1回目の回収量を上回っている地点があった。少ない地点でも2割程度となっており、調査の間隔が2週間程度であったことを踏まえると、どの地点も継続してごみが発生し、かつ、発生したごみが風雨や水に流されて場所を変え続けていることが推察される。

⑥ 海に流出した「ごみ」の回収は困難

本調査において、ごみの回収が最も困難だった調査地点は、離島の海岸を調査した笠岡市（白石島）であった。その理由は、調査地点である離島の海岸までの移動手段が船舶に限られること、回収したごみは船舶で運ばなければならない、船舶の大きさにより運搬できる量が限られること、着岸する海岸の形状や潮の干満により、使用できる船舶が限られることなど、離島の海洋特有の要因を解消しなければならない点にある。こうした場所のごみの回収には、これらの要因を解消できる方の協力が必要不可欠である。

（２） 高梁川流域圏から発生する海ごみ削減に向けて

以上の分析結果から普段の生活より、以下の点に留意し海ごみの削減に取り組むことを提案する。

「ごみを出さない努力をする！」

ごみを出さない努力とは、道路や水路へのポイ捨てをやめるだけでなく、ごみとなり得るものを手にしない努力も重要である。例えば、ペットボトルではなく水筒を持って行く、マイバッグを持ってレジ袋はもらわない、繰り返し使用できる容器を持参する、詰め替え用ボトルなど繰り返し使用できるものを選ぶ等、普段からごみになり得るものを減らしていく意識を持つことが重要である。

「各市町のルールに従ったごみ出しをする！」

ごみを出さない努力を重ねても、生活の中でごみは必ず発生する。重要なことは、発生したごみは、各市町のルールに従い、適切に処理をすることである。適切に処理されなかったごみが自然界へ有害な物質として拡散し、生態系を脅かすなど、様々な問題を引き起こすことにつながる。ルールに従ったごみ出しをするという行動が、美しい海や川などの自然環境を、次世代へ引き継いでいく行動であることを自覚することが重要である。

「誤って捨てられたごみを拾う努力をする！」

誤って道路や河川に捨てられたごみは、そのままにしておくと、雨や風によって海に流出し、海ごみとなってしまう。さらに、海に流れ出たごみは、海中を漂い、海底に沈み、離島の海岸に流れ着くなど、時間が経過するほど回収が困難になることが想定される。そのため、誤って捨てられたごみは、人の手が届きやすい、発生段階の内陸部で回収することが重要である。

こうした取組を実践し、

「美しい瀬戸内海のブルー・オーシャンを

自分たちの手で守ろう！」

高梁川流域瀬戸内海ブルー・オーシャン事業 現地調査報告書

令和3年2月発行

発行 倉敷市環境リサイクル局 リサイクル推進部一般廃棄物対策課

〒710-8565 岡山県倉敷市西中新田640番地

TEL 086-426-3375

FAX 086-421-0144

編集 公益財団法人 水島地域環境再生財団（みずしま財団）